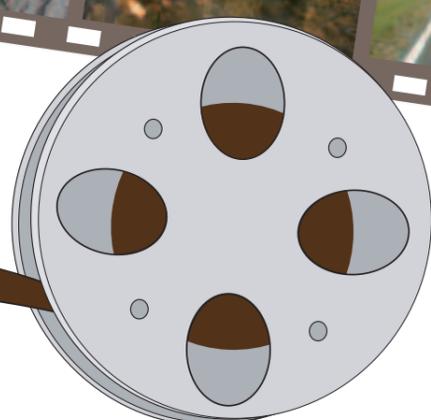


つな が る 想 い



見えないところで、
つながっています。

一人ひとりの夢が集まり、大きなパワーとなって
皆さんの暮らしの快適さへ。
宝くじの収益金は、
さまざまな街づくりに活かされています。

宝くじの収益金は、
身近な街づくりに役立っています。



当せんはしっかり調べて、しっかり換金。
財団法人 **日本宝くじ協会**
<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

つながる想い ～平成 20 年度「川に学ぶ」活動事例集～

平成 22 年 2 月発行

編集発行

財団法人リバーフロント整備センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号ロフテー中央ビル 7F

TEL:03-6228-3860 , FAX : 03-3523-0640

助成事業事務局 担当：企画グループ 佐合, 沼田

表紙の写真は、下記の活動報告写真から抜粋しています。

かもめのクリーン隊／NPO 法人静岡県フィッシングインストラクター協会／丹波市立西小学校／尼崎市立城内高等学校／千種川圏域清流づくり委員会／新宮市立蓬莱小学校／芦田川環境マネジメントセンター／こどもエコクラブ忌部わくわくサファリ／NPO 法人みずのとら BELL 隊（都道府県順）

■ ■ はじめに ■ ■

平成20年度は、「川に学ぶ」活動助成事業に対し、全国各地の市民団体・小学校等から142件の応募をいただき、このうち、40団体の方々に本事業を活用してさまざまな活動を実施していただきました。この事例集は、その活動報告をご紹介させていただくものです。

日本各地で熱心に水辺に関わる活動を実施している方々が多くいます。身近にある水辺を大切に思い、伝えようとする心が、地域の人々や子どもたちに根付き、つながっていくことを願います。また、この事例集によって各地で取り組んでいる方々の励みになるとともに、今後の多くの活動の参考になれば幸いです。

なお、本冊子に記載されている河川名等は、各団体から提出のあった活動報告書をもとに記載しているため、地域・地区での呼称もあり、必ずしも管理者が定める名称ではありません。活動目的・活動内容・活動の効果・反省点等についても、活動報告書を概ね原文のまま記載しています。

平成10年6月、河川審議会「川に学ぶ」小委員会より、「『川に学ぶ』社会をめざして」が提言され、「川に学ぶ」社会の実現を促進するために、さまざまな取り組みが始められました。

財団法人リバーフロント整備センターでは、平成11年度から市民団体等の方々が河川・海岸等の水辺で行う自然体験や環境教育等の活動に対して助成する活動助成事業を行っております。

もくじ

■ 北海道、東北地方

河川愛護団体 りばーネット21 ながぬま 【北海道】	1
NPO 法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ 【北海道】	3
青森県立五所川原農林高等学校 ビオトープ研究チーム 【青森県】	5
あらかわっ子 荒川川探検隊 【岩手県】	7
田野畑村立沼袋小学校 【岩手県】	9
指首野川水辺の環境推進協議会 【山形県】	11
NPO 法人 ひたかみ水の里 【宮城県】	13

■ 関東地方

茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校 科学部 【茨城県】	15
かしま環境ネットワーク〈環境学習サポートプロジェクト〉 【茨城県】	17
かもめのクリーン隊 【千葉県】	19
NPO 法人 ちば環境情報センター 【千葉県】	21
ちば・谷津田フォーラム 【千葉県】	23
川づくり・清瀬の会 【東京都】	25
NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク 【東京都】	27
川原で遊ぼう会 【東京都】	29
横須賀「水と環境」研究会 【神奈川県】	31

■ 信越・東海・近畿地方

遠山川探検隊「まめなかうりんぼう」【長野県】	33
女鳥羽川の自然を考える会【長野県】	35
海辺工房ひとで【静岡県】	37
NPO 法人 静岡県フィッシングインストラクター協会【静岡県】	39
NPO 法人 瀬田川リバプレ隊【滋賀県】	41
大津市立逢坂小学校【滋賀県】	43
草津塾【滋賀県】	45
宇陀かわびとの会【奈良県】	47
橿原市立畝傍中学校・科学部【奈良県】	49
明石高専河川環境研究室【奈良県】	51
尼崎市立城内高等学校【兵庫県】	53
宝塚市立西山小学校【兵庫県】	55
丹波市立西小学校【兵庫県】	57
千種川圏域清流づくり委員会【兵庫県】	59
新宮市立 蓬萊小学校【和歌山県】	61

■ 中国・九州地方

芦田川環境マネジメントセンター【広島県】	63
救助研究会【島根県】	65
こどもエコクラブ 忌部わくわくサファリ【島根県】	67
筑後川まるごと博物館運営委員会【福岡県】	69
樋井川を楽しむ会【福岡県】	71
自然と暮らしを考える研究会【佐賀県】	73
NPO 法人白川流域リバーネットワーク【熊本県】	75
NPO 法人みずのとら BELL 隊【熊本県】	77
薩摩川内市入来中学校【鹿児島県】	79

『子どもの水防団の結成及び活動』

活動の目的

水害常習地帯の長沼町では、地域住民をはじめ、行政との自助・共助・公助の連携・協働が重要であり、このため、次世代のリーダーとなる子供達に水防、避難活動を身近なものに感じてもらえるよう、子供水防団を結成し過去の水害の検証や模擬的な水防訓練などを行い、同時に川の大切さや楽しさを学んでもらうことを目的とします。

活動の内容

- ①避難やあらゆるものに利用できる、ロープの縛り方を実際に体験
- ②土のうづくりと土のう積みめの訓練
- ③避難体験実施。(河川内で水深・水流体感、避難歩行訓練)
 - ・安全に避難するための説明を聴き、指導を受ける
 - ・長靴、運動靴などを履き替えて川の中では何が歩きやすいのかを体験
 - ・棒を使った歩行避難(棒に自分の膝の高さの印をつけ、水深を確認しながら膝より浅いところを探し安全に歩行避難する訓練)
- ④河川の水流に流される体験
- ⑤地域(長沼町)の水防訓練見学



《避難体験実施》運動靴で川の中を歩きます



自分たちで作った土のうを丁寧に積み上げ、丹念に踏み固め、最後に杭で固定します。

活動の効果

いつ起こるかわからない水害に対してのいろいろな知識を得て、水害が起きたときにはどうしたら良いかということ、体験の中から勉強していただいた。また同時に、川に入ることで川と触れ合うことが出来、川で遊ぶ楽しさも体感できた。

一般住民の参加もあり、事業の趣旨を少しでも広めることが出来た。地元の水防訓練の見学も出来、地域の人達に子ども水防団の存在をアピール出来た。水防活動の大切さ・災害に備えての関心や心構えを高めることが出来た。

苦勞した点・反省点

諸事情で当初予定していた災害対策用車両試乗体験ができなかった。

地元の水防訓練に参加したかったが諸事情で見学のみとなった。実施日が地域のいくつかのイベントと重なり、当初予定していた人数よりも参加者が少なかった。

多様な体験メニューを実施している事務局に頭が下がります。子供水防団から確実に次世代リーダーが生まれることでしょう。(D.Y.)



水防災訓練の見学



「避難体験実施」川の中を長靴で歩きます



「土のうづくり」2人1組で袋に砂を詰めます

河川愛護団体 リバーネット21ながめま
杉本 利夫／政角 隆

E-mail : Kaguya@warp01.hotcn.ne.jp
HP : <http://rivernet21.hp.infoseek.co.jp/>



『子ども自然博士講座・ふるさとの川を知ろう』

活動の目的

地域の子どもたちが地域の大人とともに地域の河川について、専門家との体験を通じて様々な角度から楽しく学び、興味・関心を持つことにより、上流域の川辺環境から地域の自然、ひいては地球の環境保全について興味をもつことのできる機会を提供することを目的に実施する。

活動の内容

子どもたちが川辺環境を体験を通じて学ぶ企画として、飲料水や川遊びなど普段の生活に関わりのある「胆振幌別川」の「昔と今」に焦点を当てながら、人間の暮らしとの関わりや地形学の観点から、川辺環境がどのように形成されてきたのか、講座や数多くの実験、フィールドワークを通じて学んでいきました。

また、手作りの実験装置、世界一小さな水路を使って、長い時間をかけて作られていく川の成り立ちを短時間で学び、そして、将来の起こるであろう身近な川の自然の変化を目の当たりにしながら、考えていく機会となりました。



手作りの実験装置で川のでき方を学習



自然の摂理を実験を用いて学ぶ

活動の効果

参加者(子ども)たちが多くの実験を通じて、自然の摂理の不思議を実験の場やフィールドで体感し、なぜそういう現象が起こるのかを体験を通じて学ぶ機会になり、机上でない学習機会を提供することができました。

また、専門家から胆振幌別川の「評価」をいただいたことで、内外的にも川に対する「価値づけ」がなされたように思います。地域における河川の魅力を発見する素材(客観的評価)は、既存で進めている水生昆虫調査活動などと共に、幌別胆振川の更なる魅力発見のきっかけをいただきました。

苦勞した点・反省点

- ・ 直前のキャンセルなどもあり、定員を割った形での実施になってしまいました。
- ・ 講師の方が実験装置などの機材の多くを用意していただいたこともあり、実施の難しさは特にありませんでした。一方で、そういった機材についてはすべて手づくりのため、今後、当方でも実験装置の活用などを進めていきたいと思っています。



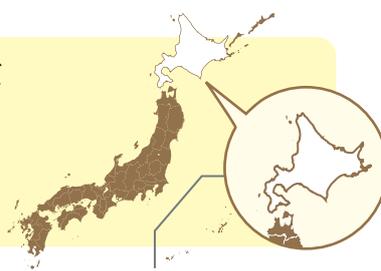
今、流れている川



昔、川だったところ



NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
理事長 松原 條一／吉元 美穂
E-mail : jimukyoku@npo-momonga.org
HP : <http://npo-momonga.org/>



『ビオトープ内の侵略的外来種駆除と魚道整備』

活動の目的

本校内にある生活環境保全林は平成14年度から整備され平成18年度に完成し、昨年までに保全林内の生物調査および水辺のビオトープの管理を行ってきました。調査の結果、希少な生物が多数生息していることが確認されました。そこで周辺水系とのビオトープのネットワークを構築する為に魚類のヤリタナゴ、ウグイ、メダカなどの魚道の整備やブラックバス等の侵略的外来種の駆除をすることにしました。

活動の内容

本校のビオトープと隣接している農業用水路に魚道を設置するためには、まず隣接する農業用貯水池である松島ため池に生息する侵略的外来種を駆除しなければなりません。そこで地域の土地改良区や管理組合と連絡・連携を図り、ため池内の水を全て抜き侵略的外来種を駆除しました。侵略的外来種の駆除後に、本校ビオトープと隣接する農業用水路に本校演習林の間伐材を利用した魚道を設置しました。これらの活動によって、本校ビオトープ内のヤリタナゴ、ウグイ、メダカなどが周辺水域でも繁殖することができるようになったと考えられます。また活動内容を地域の方々に紹介するために学校祭でビオトープ研究チームの活動内容の展示を行いました。



外来種の駆除風景



活動の効果

この活動を通じて、本校ビオトープ研究チームと地域の土地改良区や管理組合が協力関係を築くことができ、本校内のビオトープだけではなく周辺水域を巻き込む様な活動が出来たのではないかと考えている。また、魚道を設置したことにより、農業用水路に本校ビオトープ内のヤリタナゴ、ウグイ、メダカなどが繁殖し、今後他の農業用貯水池も生態系の復元がなされると考えている。生徒たちは今後本校のビオトープ内の水質と周辺水域の水質、また農業用水路の水質の違いや変化に注目し、周辺水域の生態系の復元を考えながら活動を継続するなど、活動を通じて生徒の意欲向上が感じられました。



作業風景

苦勞した点・反省点

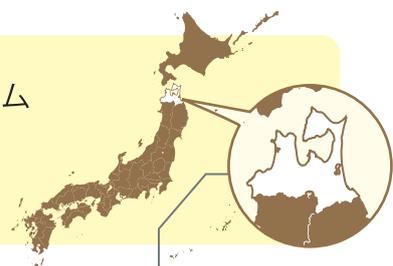
活動で苦勞した点は、何処にどの様に魚道を設置するか決めるときに悩み、魚道を製作中には魚道を設置してしまうと周辺水域に生息する侵略的外来種であるブラックバスなどが本校ビオトープ内に進入も可能になる上に、ヤリタナゴなどの貴重な魚類が魚道を通じて死滅してしまうと気づいたことが一番の問題点であり反省点であったと思います。そこで、農業用水路に隣接する松島ため池の侵略的外来種を駆除することにしました。また夏場は魚道周辺の草刈などの環境整備に追われるなど、参加者である本校生徒は汗を流しながら苦勞していました。



活動報告

ビオトープネットワークの構築が人と人との交流を生み出す好例と思えます。今後はより多くの生徒たちの参加を期待します。(D.Y.)

青森県立五所川原農林高等学校 ビオトープ研究チーム
校長 石田 雄一／藤森 陽介
HP : <http://www.seihoku.asn.ed.jp/~ah/>



『荒川川再発見！』

活動の目的

1. 荒川川にまつわる話を調べ、地域の川に対する関心を高める。
(祖父母や父母の子どもの頃、開田と洪水、清ノ淵の流れ、水の汚れの変化等)
2. 荒川川の川辺の草刈りやゴミ拾いを通して環境保全への関心を高める。
3. 水生生物・水生植物の調査体験で、荒川川の環境状態を理解させる。
4. 地区民の荒川川の現在の状況や環境保全に対する関心を高める。

活動の内容

- 7/20(日) 荒川川の川岸の草刈り作業
…川への出入りのため 保護者4名
- 7/23(火) 川探検の打ち合わせ会
…講師3名・保護者5名・教師2名 計10名
- 8/11(月) 荒川川探検の現地踏査
…位置の検討、実態の把握、駐車場等の確認
- 8/17(日) 荒川川探検
…学校集合、講師からの説明、移動、探検、まとめの会、解散
…内訳:児童11名・保護者9名・教師3名・講師3名 計26名
- 8/20~9月 活動のまとめ(報告会の準備)



荒川川探検開始の挨拶



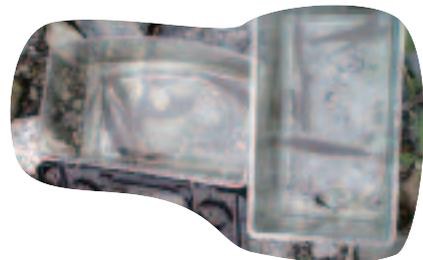
アドバイスをを受けながら魚を捕獲！

活動の効果

1. 子どもの頃に遊んだきり、川に入ることもなく過ごしていたというお父さんたちの意欲が高かった。「危ないから。」と言って子どもたちを川から遠ざけてばかりいたが、チームを組んで子どもたちをもっと地域の川に親しませたいと思っていたとのことで、今回の体験でその思いを強くした様子であった。
2. 自然豊かな地域であるが、近年、川の魚や水草、田んぼでのドジョウの姿などが急速に見られなくなっているという話が出た。地域の川である荒川川の実態はどうなっているのか、子どもたちに川遊びを体験させながら、同時に魚や水草の調査をしたいという声が聞かれた。



アクアスコープで覗く川は別世界



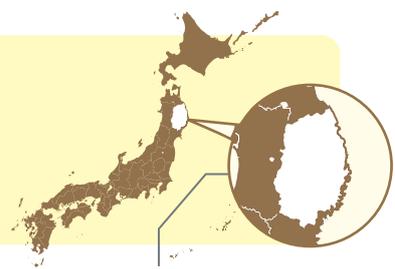
捕まえた魚たち

苦勞した点・反省点

1. もっと多くの子どもたちの参加を計画していたが、現地の川の深さが予想以上の場所もあり、安全面から参加対象を5・6年生に絞った。それでも親が心配して参加を取り消した6年生がいた。
2. 川に入らないで待機するメンバーも必要で数名残ったが、途中から興味が出て参加したい人が出てきた。前半と後半で分担することを考えればよかった。



あらかわっ子 荒川川探検隊
高橋 尚子／下村 知信
E-mail : arashow@educet01.plala.or.jp
HP : <http://academic4.plala.or.jp/arashow/>



『美しき普代川と共に』

活動の目的

1. 普代川上流にある沼袋地区の自然環境について学習する。
2. 普代川の水質調査を上流・中流・下流で体験し、自然環境保全の大切さを理解する。
3. 活動の結果を地域全体に啓発し、活動の輪を広げる。

活動の内容

総合的な学習の時間の中で、沼袋地区の自然環境を学習する。そして、チョウセンアカシジミ、サクラソウ等の貴重な生き物や植物をもたらす普代川のすばらしさを理解する。さらに、普代川の水質調査を上流・中流・下流で体験し、自然環境保全の大切さを実感させる。

後日、地域住民を対象にした水質調査についての発表会を行う。



環境アドバイザーからご指導いただきました

活動の効果

普代川の水質調査を上流・中流・下流、そして、いくつかの支流で実施することにより、児童は、自分たちが住んでいる地区を水源とする普代川の全体像を把握できた。また、中流で生活排水が流れ込み悪臭を放っている場面に直面した。そのことによって、普代川上流に住んでいる自分たちが、もっと普代川の水を大切にすることの必要性を感じる事ができた。



パックテストで水質調査

地域の方々は、児童が化学的なパックテストや水生生物調査により普代川の水質を調べ、今後の生活の在り方などを考えていることに感心すると共に、自分たちも川の環境を守ろうとする感想をもっていただいた。

苦勞した点・反省点

- 普代川水質調査の計画立案の際、教科や総合的な活動の時間との関連を有機的に図るよう工夫した。例えば、普代川水質調査をするのだから普代川と関連のある単元構成を工夫し、普代川支流の大森川での米作りを高学年で行い、水の大切さを考えさせるような総合単元的年間計画とした。
- 普代川水質調査を上流・中流・下流で行うことを基本に据えたが、実際に児童が住んでいる支流との係わりもあり活動の場を広げる必要が児童の考えから出てきた。
- 役場水道課との調整、他市町村での活動もあって許可申請等の必要が出てきたが、教育委員会の社会教育担当の方が連絡調整を行ってくれた。



中流は生活排水で汚れています

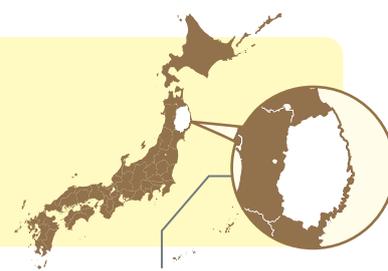


上流の水質はとてもきれいでした



地域や保護者の方への調査発表

田野畑村立沼袋小学校
紺野 昭男／新屋 敏明
E-mail : numasyou@vill.tanohata.iwate.jp



『指首野川は地域の宝』

活動の目的

1. 自然豊かな指首野川を活用した学習空間づくりを通して、指首野川に関心を持ってもらう。
 2. 地域の川づくりのネットワークづくりを通して、地域間・異年齢の交流の場づくりを行う。
 3. 地域の自然環境への関心を高め、地域全体への活動に広げるきっかけを作る。
-

活動の内容

1. 指首野川に蛍を蘇らせる活動を小学5年生と地域団体が協力し、幼虫の飼育・放流活動や鑑賞会を実施する。
2. 小中学生や保護者、地域住民が協力して指首野川の清掃活動を実施する。また、地域団体とその関係町内子ども会で、指首野川の歩道にコスモスを栽培し、美化活動に取り組む。
3. 小学校5年生の親子行事で、指首野川の源流(大以良川)めぐりを実施、森林と水の関わりについて学び、下草刈りや水質調査を行う。
4. 広域的な環境サミットを開催し、川など自然環境の保全の必要性や今後の取組について考える。



クリーン作戦



源流めぐり

活動の効果

1. 指首野川を拠点にしたさまざまな活動を通して、異年齢や異世代交流が拡充し、地域の教育力の向上と地域コミュニティ形成が図られた。
2. 児童らは、蛍の飼育・放流や水質調査、クリーン作戦等の活動を通して、地域の川を大切にする心と郷土への愛着心が育まれた。
3. 広域的な「子ども環境サミット」を開催し、本会での取組を含め、新庄市内各参加校（小5校、中2校）の実践や今後の環境保全のあり方について意見交換し、地域にも広く意識啓発を図ることができた。



蛍の放流

苦勞した点・反省点

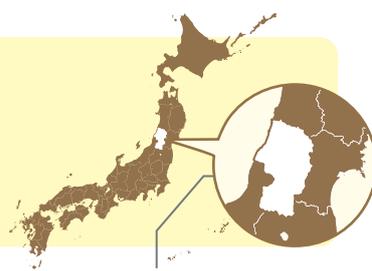
1. 源流めぐりでは、親子で約160名の移動を伴う活動となり、現地への輸送手段の確保やトイレの確保など苦慮した。
2. 環境サミットでは、大きな成果があったので、参加校の拡大や地域の活動団体を含めた内容等、更に進化・継続していくようにしたい。

活動が源流を含む流域全体へ広がっていると共に、学校から地域団体まで参加者にも広がりがあり、流域活動の情報発信のモデルとなると考えられる。(O.T.)



環境サミットの様子

指首野川水辺の環境推進協議会
長沼 敏／伊藤 進
E-mail : shinjo-e@mediaweb.jp



『川の四季をカヌーで生物観察記録等の体験』

活動の目的

子供たちを地域の川に連れ出し、遊びの楽しさ、自然の恐さを体で体感しながら仲間づくりや励ましあう心が育ち、自然の生物を観察しながら水と生き物、人と自然の関わり等を体験しながら感じる子供たちを多くする運動です。これらの体験観察活動が生きる力となり、故郷の大切さが理解されることが地域づくりの担い手となる。

活動の内容

子供たちを募集して、川や海で遊ぶクラブ「めだかつこ」を4月～翌2月・月2回開催することとした。応募の子供たちが5名と少なかったが実施することにした。人数が少ないが5月にはカヌーで北上運河と定川を「約10km」2日間で往復したり、7月には郡山市の子供たちと皿貝川で1泊2日のキャンプに交流体験したり、8月には石巻市で募集した皿貝川の生物調査とカヌー体験にも応援したりの活動でした。特に観察した皿貝川の水草「ヒシ、アサザ」の調査に興味を持った活動でした。



皿貝川のワンドでカヌー体験



親子でカヌー

活動の効果

子供たちの自然体験活動で良かったことは、自然と子供が同化しやすい事が解った。と言うのは、素直さが体から発生することにより自然が素直に受け入れる状況が私には見えるのです。又、生物との触れ合いについても大人以上に感受性が伝わるように見られます。大人もたまには純真な気持ちで自然とのふれあいが必要ではと感じます。

子供の活動に大人が積極的に関わる遠き社会が不足している。これを各地で実現されることが体験活動の重要な事であり、書類だけで判断する社会を変えることが「川に学ぶ」活動の成果だと思えます。

苦勞した点・反省点

1. フィールドの管理者「県」からの使用許可。
特に柵の撤去と自由使用
2. 予算不足でも予定の活動の実施
3. 行政の広報への取り組み不足を補うこと
4. 社会の流れが塾とスポーツ少年だけで優秀な大人になれるとの認識に対処したPR法

子供たちを野外に連れ出し、自然観察をさせ、ひいては地域づくりの担い手を育成することはすばらしいことだと思う。(K.A.)



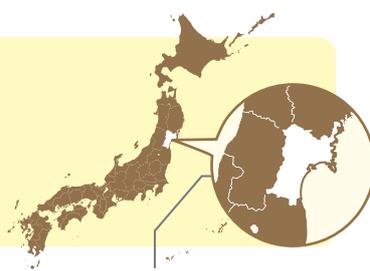
カヌー操作練習中



水草の観察



NPO法人 ひたかみ水の里
新井 偉夫／千葉 京子



『霞ヶ浦とその流入河川の水質を調べる』

活動の目的

霞ヶ浦やその流入河川の水質調査を通して、中学校の生徒の科学的資質の向上と環境問題への関心を高めることが本活動の目的である。生徒の住む美浦村に面した霞ヶ浦は生徒たちにとって生活に密着した身近な自然環境であり、水質汚濁や環境破壊から守っていこうとする意識は高い。これら身近な環境について調べる中から課題を見つけ、生徒の力で解決することで喜びを味わえるような活動を行うことが目的である。また、発見する喜びや創造する喜びが味わえる科学的な体験活動の場を設定し、科学に関するコンクールや発表会への積極的参加も呼びかけ、身近な自然を調査・研究する活動の支援・指導を通して、生徒の科学的資質の育成をめざしている。

活動の内容

1. 霞ヶ浦の流入河川である大須賀津川の水質を日時を変えて詳しく調べた。河口より540m地点を起点とし、下流に向かって30mおきに水質を測定した。測定項目は電気伝導率、水温、透視度、pH溶存酸素量、Fe濃度、Al濃度、Zn濃度、リン酸イオン濃度、硝酸イオン濃度、アンモニウムイオン濃度、塩分濃度、CODである。
2. 周辺の水田や蓮田の水質調査や金属調査を行い、霞ヶ浦への影響を調べた。
3. 金属が溶け込んでいる水溶液に植物及び植物に含まれる葉緑体を与える影響を調査した。
4. 研究の成果について校内で発表会をおこなった。
5. 地域の小学生と一緒に霞ヶ浦や周辺の農業用水の水質調査を行い、調査方法等の指導を行った。



水質調査



役場や子供会と一緒に



透視度測定

活動の効果

2008年6月にはこれまでの活動の成果が認められ、日本水大賞奨励賞を受賞した。また、茨城県から環境保全功労者賞を受賞した。8月には世界子ども水フォーラムフォローアップin東京に部員が参加し全国の中高生の代表と水に関する問題について活発な議論を行った。また、昨年度の卒業生も高校生として参加し、その活躍が認められ日本代表としてイスタンブールで行われる世界大会へ参加することが決まった。

地域の小学生と行った霞ヶ浦及び周辺の農業用水の水質調査では、小学生に水質調査について興味を持たせるため、部員がその方法について指導し共に調査を進めながら親睦を深め、身近な環境問題について考えるきっかけを作った。



日本水大賞奨励賞を受賞

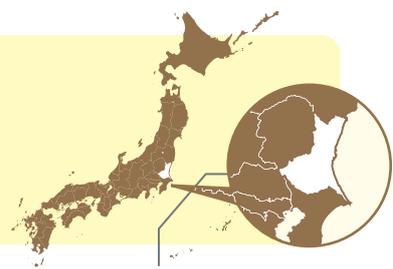
苦勞した点・反省点

1. 測定地点の間隔を狭く取ったため測定地点が多くなり、時間がかかり苦勞した。
2. 調査を進めるにつれて測定データが膨大なものになり、整理し解析するのに苦勞した。
3. 研究を進めるにつれて内容が高度なものになり、中学生が理解できる範囲で理由を分析しまとめあげることが困難であった。



茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校 科学部
桑名 康夫／高橋 竜一

E-mail : ryuichi@miho-miho-j.ed.jp
HP : <http://www.miho-miho-j.ed.jp>



『鹿島神宮の森から湧く水と北浦に学ぶ』

活動の目的

改善が一向に進まない北浦の水質。また、その水源の一つでもある鹿島神宮周辺の湧水群の荒廃など、鹿嶋市の水環境はあまり芳しくない。その現状に対して、一昨年から、鹿嶋市各地にて身近な「水」を守ろうとする活動が本格的に動き出した。当プロジェクトでは、それらの活動をサポートすると共に、環境学習として子供達に「水」の大切さを伝えていく事を目的にする。

子供たちがザリガニ釣り大会に楽しく参加しながら、外来種駆除を理解できるユニークな取り組みであり、ザリガニ以外の外来種問題にも積極的に取り組んでほしい。(O.T.)

活動の内容

環境学習サポートプロジェクトのメンバー「かしま水を考える会(かしま環境ネットワーク正会員)」が中心となって、鹿島神宮内の御手洗池(湧水地)を水源とするひょうたん池を環境学習のフィールドとし、ザリガニ釣り(外来種駆除)大会を開催。水の大切さ、自然の大切さを子供と一緒に学んだ。また、御手洗池、鹿嶋市にホテルを呼び戻そうを合言葉に紙芝居を作成。環境学習の教材として活用していく。



親子でザリガニ釣り大会



2時間で300匹以上が釣れました！

活動の効果

市報のみのPRで合計230人の参加者があった、外来種駆除(ざりがに釣り大会・3回実施)は多くの子供たちに自然と触れ合うキッカケを与えられた。また、市報・タウン誌・地元FM等で取り上げられた活動は、多くの賛同者を得ることができ、「水を考える、川を考える」教材として、紙芝居“2ひきのホタルを100ぴきに”を完成することが出来た。



紙芝居作成風景

苦勞した点・反省点

助成が決定した6月より、イベント活動中心(外来種駆除3回、鹿嶋市環境展、てーら祭、水源視察会、奥井登美子氏講演会)のため、過密スケジュールとなり、紙芝居作成が遅れてしまった。

当初予定していた、他の鹿嶋湧水群保全活動(山之上地区湧水地、九反田池湧水地)との連携がイベント参加のみで終わってしまった。

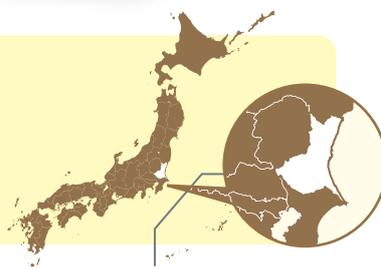


紙芝居完成!



活動報告書第4号

かしま環境ネットワーク / 麻生 順子
環境学習サポートプロジェクト / 鈴木 慎二
E-mail : info@kashima-kankyo.net
HP : <http://kashima-kankyo.net>



『ポートパークのクリーンアップと生き物観察』

活動の目的

千葉市ポートパークの海岸は人工海浜だが、鳥や魚貝などさまざまな海の生物たちが生息し住民たちの憩いの場になっている。いっぽう海岸に打ち上げられたり来訪者が捨てていったゴミが多数散乱しているので、海岸のゴミを拾いクリーンアップを行う。しかし、ただ拾うだけではなくゴミの種類を分別・調査することによりゴミの実態を把握し、われわれの普段の暮らし方や環境問題を考える。さらに国際環境保護団体「JEAN/クリーンアップ全国事務局」と連携して、地球環境の問題にも思いをはせる。また、海岸で「生物観察会」を催すことにより、子どもたちも水辺に親しみ、海の環境問題に関心を持ってもらう。

活動の内容

1. 2ヶ月に1回、定期的に千葉港ポートパークの人工海浜でクリーンアップ(ゴミ拾い)を行う。
2. 年に2回、JEAN/全国事務局に報告する。※9月30日世界一斉調査クリーンアップに参加しました。
3. 子どもたちと一緒に「自然観察会」を催す。
※7月30日「夏休み海辺の自然観察会」開催しました。
4. リーフ、チラシ撒き、ホームページ等で参加を広くクリーンアップ活動を市民に呼びかける。
5. 講演会、工場見学、環境に関するイベントに参加。
※6月「千葉市手づくり環境博覧会」出展しました。



活動の効果

クリーンアップを定期的に行うことにより、毎回参加してくれる親子、会社の同僚仲間などの参加者が少しずつ増えてきた。訪れた市民や観光客からも、関心を持って迎えられた。また、千葉県港湾事務所、観光公社、千葉市環境保全課からボランティアとして認知され、協力を得ている。7月30日の「夏休み自然観察会」は千葉市教育委員会の後援を受け、新聞、ミニコミ、NHKFM、千葉テレビ等で、案内や取材を受けた。自然観察会においては、海鳥、貝、魚、クラゲなど多種多様な生物が生息していることが確認でき、身近な自然を体感でき、子どもたちも喜んでいた。

苦勞した点・反省点

海岸のゴミ拾いはアウトドアで行う活動なので、天候に左右されることで苦勞している。ことに、今回9月のクリーンアップは前夜からの大雨で、中止するかの判断に迷い参加者が少なくなってしまった。秋の雨季にあたるのか、昨年の9月30日は雨天中止となっている。秋は年に一度のJEAN国際調査にあたるのだが、日程をどうするかは今後の課題となる。



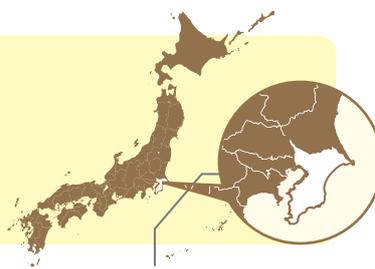
集めたごみを分別します



どのようなゴミがあったかの展示



かもめのクリーン隊
神宮 千恵子
E-mail : le-nez@blue.ocn.ne.jp
HP : <http://kamome-clean.org/>



『都川川遊び出前講座と生き物図鑑の作成』

活動の目的

市内で発生し市内を流下し東京湾に流れ出る都川は、市民にとって最も身近な川であるが、実際に市民が川に入る機会はほとんどない。当会では1997年以降川遊び出前講座を行ってきたが、年々市民の関心も高まり、毎回多くの参加者がある。

今年も活動を継続すると同時にこれまでの活動で得られた生き物情報を元に生き物図鑑を作成し、より多くの人に都川に親しんでもらうきっかけとする。

活動の内容

1. 川遊び出前講座

7月21日、10時～12時都川多部田橋周辺で川遊びを行った。活動に先立ち、堤防の草刈り、川の深みや危険物の有無など安全点検を行う。

2. 生き物図鑑作成

これまで行ってきた「川遊び出前講座」のデータを整理し、写真や説明を入れて生き物図鑑を作成した。500部印刷し、川遊びの資料とし、さらに川に関心を持ってもらうため市民公民館などで配布。



活動の効果

都川は千葉市民に最も親しみの深い川でありながら多くは岸から眺めるだけであるが、実際に入ってみることで川の水の冷たさや川の水の匂いを感じ、川への愛着がよりいっそう深まったものと思われる。また、多くの生き物が生息していることを知り水環境を守るために私たちが暮らしの中でどのように行動していったらよいか、親子で考えるよい機会となった。

また、「都川生き物図鑑」については、市民による初めての試みであり大きな意味を持つ。街の川に対して市民の愛着が深まり、環境保全への関心が広がり、さらには行動へと結びついていくものとする。広く配布することで公民館や小中学校の環境学習教材としても活かされていくものとする。



川に入る前に注意点チェック！



先生に採り方を教わります

苦勞した点・反省点

1. 川遊び出前講座・・・参加者が周辺の田んぼの畦に入らないよう配慮した。
2. 生き物図鑑作成・・・解説をわかりやすくするため工夫した。

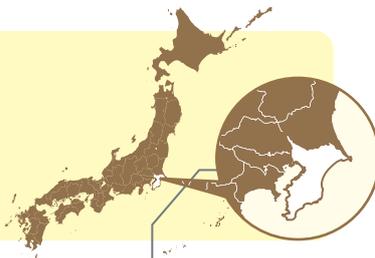


どんな生き物がいるかな



『川野博士の都川いきもの図鑑』

NPO法人 ちば環境情報センター
 小西 由希子
 E-mail : konikoni@tky.3web.ne.jp
 HP : <http://www.ceic.info/>



『都川湧き水マップの作成』

活動の目的

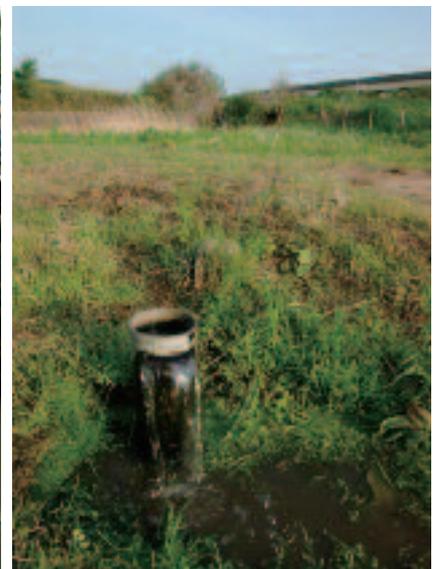
千葉市には多くの湧き水や自噴井があり、古くから農業や人々の暮らしに利用されてきた。高齢化による農業の衰退や生活の変化により忘れられようとしているが、地域にとっては貴重な遺産であり生物多様性保全のためにも欠かせない存在である。

本事業は、聞き取り調査を通して地域と関わり、また広くマップを配布することで、湧き水・自噴井の水質・水量保全のため市民ができることを共に考えることを目的とした。

高齢化社会を反映して、これを活性化し、地域との関わりをマップを通して共に考えていくことは現在の社会にマッチした活動であると思う。(K.A.)

活動の内容

1. 図書館、市役所、県立中央博物館などで湧き水に関する情報を調べる。
2. 文献を元に都川周辺を歩き、湧き水や自噴井の現状調査を行う。
3. 周辺の方に過去の様子や利用状況などを伺ったり、湧水量や周辺の様子を書きとめ、現場の位置を確認し(緯度・経度を記録)写真をとる。
4. 地図にプロットして湧き水マップを作成し、都川流域の学校・図書館などに配布し、広く市民に湧き水について知ってもらう。



活動の効果

湧き水や自噴井が昔から農業を通して人々と密接につながりをもってきたことを再考し、さらには地域にとって貴重な遺産であり生物多様性保全のためにも欠かせない存在であることを多くの市民に知ってもらうきっかけとなった。

また、千葉市では、過去に斉藤正一郎氏によって詳細な湧き水調査が行われてきたが、これまで市民が身近に手に取る資料はなく、湧き水について広く市民に知らせる効果があった。

湧き水・自噴井の水質・水量保全のため今後市民ができることを共に考える材料となった。



湧き水調査

苦勞した点・反省点

湧き水箇所を地図上にプロットするのに手間取った。



都川流域わき水ガイド



ちば・谷津田フォーラム
中村 俊彦／田中 正彦
E-mail : qyk16306@nifty.com
HP : <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>



『市民みんなの川まつり 遊ぼう学ぼう清瀬の川』

活動の目的

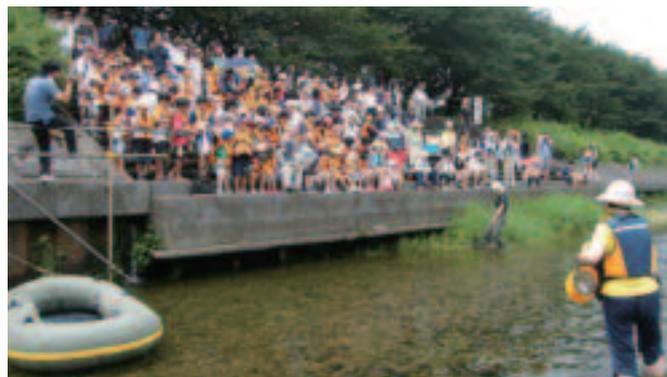
空堀川は、湯水期には瀬切れとなり白っぽい礫川原です。柳瀬川の豊かな生態系をつなげ、温暖化抑制のためにも是非「水量の確保」のアドバイスを!そして河川管理者が、改修時地域住民を対象に懇談会を立ち上げても、川に対する関心が違いすぎると良い合意形成ができません。皆で“いい川づくり”をするためには!など下記テーマについてお話し頂きました。

1. 雨量だけが頼りの、すぐに瀬切れを起こす河川の流量確保について。
2. 「いい川づくりについて」会主事など、その土地にあった最も良い合意形成をなすためには。
3. 現在改修中の懇談会で話し合われた「階段式落差工」について、自然度があり、生態系に優しい工法は?

活動の内容

新河岸川流域の川に係わります、国交省・都・市行政・コンサルさんも交えて、70名を超える皆様が参加され、中小河川に関する河道計画の技術基準(ポイントブックII)に盛られている原則について。

改修時には、設計からではなく、その土地にあった(武蔵野の景観にマッチした)美しい河川環境と豊かな生態系創出のためにもまずは模型作りから入ると良い等、具体的に“いい川”のイメージ作りを映像を交えてご指導くださいました。



活動の効果

島谷教授の素晴らしい講義進行のお陰様で、市民や山道氏及び河川管理者など専門家も交えた参加者一同、ワークショップのようなやり取りの中で、都市河川のあり方、河川への流量確保の手段として、流域市の雨水浸透のための知恵や工夫の必要性。構造面も現設計図の人工的なものから緑を重視し環境に配慮をしたものに等、行政・市民共に充実した学習ができました。

何より感謝したいことは、後日島谷先生から、課題の落差工について模型をお作り頂き、ご指導頂いた工法を、見えるものとしてお示し頂けたことです。

当会は、先生のご厚意を謝し、必ず現実のものとし、誇れる河川環境となりますよう全力で活動をしていきます。



苦勞した点・反省点

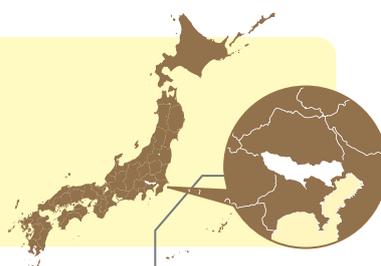
島谷教授の大きなご負担の上に可能になりました勉強会でした。その上先生から素晴らしい模型までお作り頂き、お礼の申し上げようもございません。

教授をお招きできましたのは、今回の活動助成を頂けましたからこそ、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

「いい川づくり」を地域の子供たちが参加して模型づくりを行うことで、川に対する関心がますます高まればと願うばかりです。(T.H.)



川づくり・清瀬の会
宮澤とよ美
E-mail: toyomi5@attglobal.net



『鶴見川流域ウォーキング月間2008』

活動の目的

1. 流域市民から人気の高いウォーキング・イベントを実施し、流域市民からの要望に応えると共に、「鶴見川流域ウォーキング・フォーラム」を開催し、流域市民で流域の地図と魅力を共有し、流域ツーリズムの普及啓発ならびに流域交流をはかる。
2. 鶴見川流域水マスタープランの目標の1つである「多様な資源を活かした流域ツーリズムの推進」を支援する。

活動の内容

平成20年4月29日～5月31日の実施期間中に、鶴見川流域内の各地域で、川や自然に関する活動をしている市民団体がウォーキング・イベントを企画し、一般参加を募って実施しました。市民団体のスタッフがガイドとなり、川や流域、地域の歴史や自然などについての解説を行いました。

実施期間最終日の5月31日に「鶴見川流域ウォーキング・フォーラム」を開催し、イベントを実施した市民団体からイベントの報告を受け、流域市民で流域の魅力を共有し、交流をはかりました。



山越え谷越え森コース



下流の川辺と谷戸の歴史めぐり

活動の効果

流域で活動する市民団体から、治水施設や川沿いの商業施設と連携したウォーキングなど、それぞれに特色あるイベント企画が集まりました。ウォーキング・フォーラムにも全ての実施団体が出席し、流域の市民・企業・行政の連携で進める流域ツーリズムを一步前進させることができました。ウォーキング月間のイベントに連続して参加して下さった参加者もいて、流域ファンを育てるイベントとして成果をあげることができたと考えています。

苦勞した点・反省点

雨天で参加人数が見込みより減少してしまった企画があったため、雨天時のプログラムの準備の必要性を感じました。



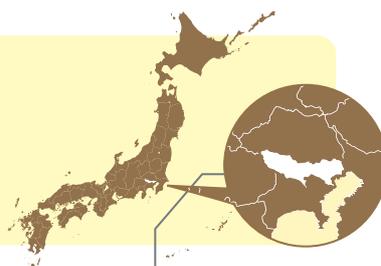
パンフレットや当日配布資料など

NPO法人 鶴見川流域ネットワーク

岸由二／小林 範和

E-mail : office@tr-net.gr.jp

HP : http://www.tr-net.gr.jp/



恩田川流域めぐり

谷本川流域ウォーキング（調節池地下トンネル）

『里の川・平井川の自然を保全するために』

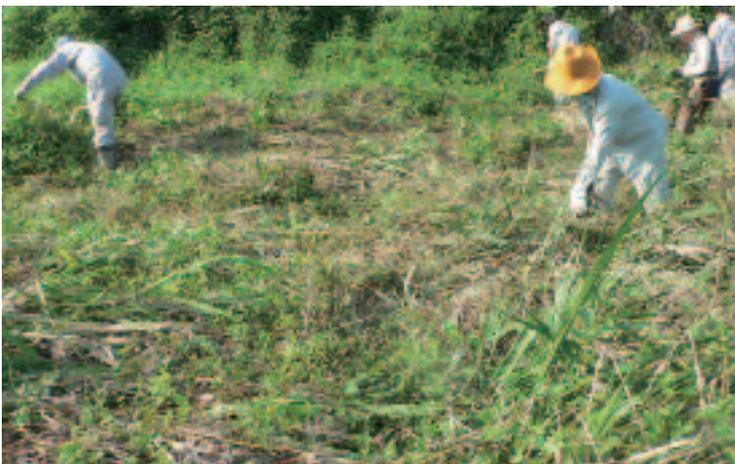
活動の目的

1. 東京都において唯一里の川の自然が残る貴重な平井川の存在をアピールする。
 2. 平井川の自然について、市民参加の調査をおこなう。特に、河川敷のカヤ原に生息するカヤネズミ(東京都の希少種に指定)と、平井川の自然の豊かさを特徴づけるトンボ類を中心に調査する。
 3. 調査をもとに、専門家を交えて平井川の自然環境の保全について検討する。
 4. 市民と行政が協働で環境保全のための作業をおこなう。
- 3, 4については特に、平成19年度に河川改修工事がおこなわれた菅瀬橋下流を対象におこなう。

市民と行政が協働で貴重な自然環境を保全するための取組みであり、次世代に継承できるようますます多面的な活動に期待する。(T.H.)

活動の内容

- ・平成19年度河川工事に対し、当団体を中心に保全対策の提案をおこない、それに基づく保全作業が進められてきた。本年度はその継続として、オギ原復元のために工事終了現場へ根茎の移植をおこない、外来植物等の抜き取り作業をおこなった。
- ・これまでおこなってきた市民による自然環境調査の一環として、工事区間でカヤネズミとトンボのモニタリング調査を実施した。
- ・専門家を招聘して勉強会を開催し、これらの作業や調査の結果をもとに、保全対策の評価と今後の保全のあり方について検討した。



オギ原保全のための草刈り



オギとツルヨシの根茎を移植

活動の効果

- ・ 工事区間のオギ原の復元については、オギの面的な定着が見られ、専門家からも1年目としては順調であると認められた。
- ・ 市民によるモニタリング調査によって、工事前と工事後の生物および生息環境の変化を検討する上で、重要な資料を得ることができた。
- ・ 調査には小学生、大学生、一般市民の広い層から参加があり、平井川の自然や調査の意義を知る貴重な機会となった。
 - ・ 勉強会には市民と行政関係者が参加し、昨年度からおこなってきた保全対策について専門家からの評価を受けると共に、今後の保全作業のあり方について具体的なアドバイスを受けることができた。



講師からのアドバイス



カヤネズミの調査



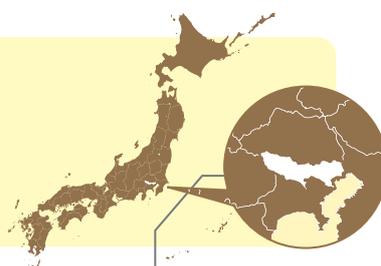
カヤネズミの巣

苦勞した点・反省点

- ・ 保全作業のうち、工事区間周辺の環境を改善するための作業は、思った程の効果をおげることができず、植生管理の難しさを実感した。今後は人員や作業回数を増やす必要がある。
- ・ 市民参加の調査については、毎回、調査人員の確保に苦勞する。人力的にはまだ十分ではないが、昨年度より参加者層が広がった。調査参加への直接的な呼びかけだけでなく、他団体との交流や自然観察会の継続など多面的な活動が必要であることを感じた。

川原で遊ぼう会
辻 淑子

E-mail : kawarade@nifty.com



『「川のかんきょう お知らせ板」プロジェクト』

活動の目的

市街地を流れる川は、洪水防止機能を目的とする直立三面護岸が続き、両岸はフェンスで隔離されているため、心が和むオープンスペースではなく生き物の住む自然と共生するところという意識が薄く、投げ捨てられたゴミ(自転車も)などが目立つ。そこで横須賀市内で一番長い「平作川」と西地区で流域人口が多い「竹川」を対象にして水環境(水質、生き物、ごみなど)を調査し、その結果をわかりやすい「川のかんきょう お知らせ板」(A3判)にして、地元の人々の目に触れやすい橋の欄干、川沿いのフェンスに貼って住民に周知することにより、身近な川に関心を持ってもらうことを目的とし、環境意識の高揚・啓発を行うものである。

活動の内容

1. 水質などの調査:

- ①パックテスト(pH、COD、NO₂-N、PO₄-P、陰イオン界面活性剤など)
- ②生き物調査(鳥、魚貝類、水生生物)
- ③ごみの有無、多少

2. お知らせ板の作成:A3判カラーコピーをラミネート仕上げする。

対象河川のマップに調査地点を示し、水質評価

*結果を色で示す

(青:とてもきれい、緑:きれい、黄色:少し汚れている、赤:汚れている)

*研究会独自の評価法による。

3. お知らせ板取付け:橋の欄干、フェンスに結束バンド、ヒモなどで止め固定する。

4. お知らせ板の点検:剥がれていないか点検し、補修または取り替えを行う。



上:パックテストのチューブ
左下:平作川の源流調査
右下:水質調査の様子

活動の効果

参加者は当研究会のメンバーであり、「お知らせ板」プロジェクトの対象は地域住民である。

「お知らせ板」を更新していると立ち止まって見てくれる人がいるが、最近は時々話しかけてくれる人がいるようになった。「昔の川はきれいで自然が残り、遊んだり泳いだりした」と昔を懐かしみ、一時は臭いがするほど汚れていたが、最近はきれいになったという。

11月、平作川流域の衣笠行政センターの講座で、「平作川の現状について」話をして欲しいと依頼があり、「お知らせ板」の活動も紹介した。また川に近い小学校から環境学習の授業も依頼された。「お知らせ板」の直接効果ではないだろうが、最近、川は少きれいになったようである。



興味を持った小学生に川の話をする

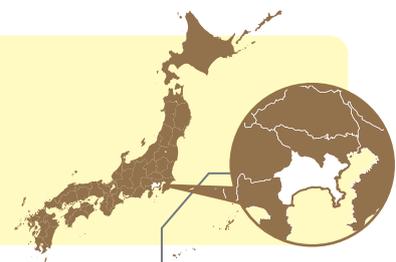
苦労した点・反省点

1. カラーコピーの色、特に赤の耐候性が弱く、時間とともに段々黄色くなってしまふ(色シールを貼って様子を見ている)。
2. 風雨で汚損した状態で貼られているとみともないので、時々点検し、取り替えの必要がある。



お知らせ板

横須賀「水と環境」研究会
高橋 弘二
E-mail : hirojit@jcom.home.ne.jp



『遊ぶぞ！ 守るぞ！ 遠山川は、みんなの宝物』

活動の目的

年間、遠山川と親しんできた子どもたちは6年生としてのこの一年間は川の学習の集大成と位置づけ、もっともっと遠山川に親しみたいと一年間の活動計画をたてた。殆どが昨年度の活動の続きが多く、いい意味でのこだわりが子どもたちにあった。活動の幅を広げながら、子どもたちなりに川の学習のまとめをしていきたい。また、遠山川の良さを感じている子どもたちは、その良さを地域外の人たちに広めていきたい、遠山川のきれいな水を守っていきたく願っている。

活動の内容

- ・ 体験活動ー昨年できなかった筏下りを遠山川下流で行った。保護者、中学生も参加して、川に親しむことができた。筏はOPPテープでペットボトルをつなぎ、ベニヤ板を載せて作った。
- ・ 調査活動ーPHとCODで水質検査を行った。昨年の結果と比較しながら、川のきれいさに注目した。
- ・ 広報活動ー川のフォーラム、セミナー、研修会、ワークショップ等で遠山川の良さを自作の歌や活動発表を通して、いろいろな方に伝えた。



ペットボトルで筏づくり



自分たちで作った筏は格別です

活動の効果

- ・ 体験活動一筏下りには多くの保護者が参加し、ライフジャケットを着て子どもの安全を見守りながら、川で遊ぶ楽しさを実感していた。時にはボートに乗ったり、川に飛び込んだりする姿もあった。
- ・ 調査活動一子どもたちがよく泳いでいた場所が工事の影響で9月まで泳げなかったが、水質検査できれいさが保たれていることがわかり、安心した。守っていききたいと気持ちがいっそう強くなった。
- ・ 広報活動一子どもたちが作った川の歌や活動発表が広まり、地域の公民館や他地域の団体から発表の招待がかかった。地域の行事にも招待され、発表した。



水質調査も行いました



ライフジャケットを着て

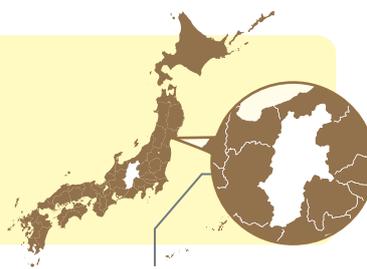
苦勞した点・反省点

体験は天候が左右するし、その影響で川の流れも変わるしで、安全に実施できるための判断が難しかった。沢登り・沢下りや全校に川の良さを感じさせたかった「全校川遊び」などの体験が天候不良のためできなかったのが大変残念だった。



写真をまとめて報告

遠山川探検隊「まめなかうりんぼう」
小林 裕行
E-mail : wadasc@ed.iidanet.jp
HP : <http://www.wadasc.ed.iidanet.jp>



『女鳥羽川の自然回復をマップの形で表現する』

活動の目的

女鳥羽川は、平成4年から大きな改修工事が行われた。工事は10年後に完成し、その翌年平成15年から、私たちは改修後のモニタリング調査に取り組んだ。調査は5年間行った。その結果を簡潔で分かりやすくまとめ、多くの市民に伝えたいと考え、「女鳥羽川の生物マップ」を製作することにした。改修後の女鳥羽川に自然の生物がもどり、自然が甦ってきたことを市民に感じてもらい、自然の生物に対するやさしさや、川の環境の大切さなどに少しでも気づいてもらえたらうれしい。

活動の内容

夏期は、河川敷の野草観察点の6箇所とその周辺を見て回り、5年間の調査のあとは大きな変化が起きていないことを確認した。また高水敷の形状と低水路内の寄洲のつき方や滞筋なども調べた。秋以後は、女鳥羽川周辺の町並みを調べて、「生物マップ」の裏面に描く「女鳥羽川周辺図」の取材を行った。冬期は、女鳥羽川に入ってくる小河川の水の温度を調べて、湧水起源の水かどうかを判断したり、マップ図の原稿作りや解説用の小冊子の編集などに取り組んでいる。



植物調査事前打ち合わせ

活動の効果

モニタリング調査には関心のなかった人が「マップ作り」ということであらたに活動に加わってきた。地元の新聞や印刷業者などの方々からも関心をよせてもらったり、アドバイスもいただき、市民との近づきができてきた。今後は更に「女鳥羽川生物マップ」の普及と利用へとすすむ中で、川への環境への関心や保全意識の高まりに、少しでも役立つようにしたいと考える。「生物マップ」を会場用に映写できるようにして、説明会などにも利用するつもりである。



女鳥羽川にそそぐ小河川の水温調査

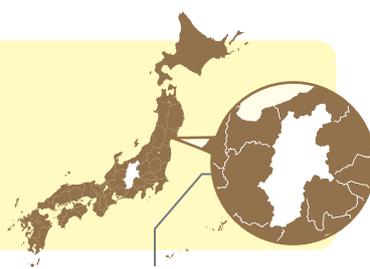
苦勞した点・反省点

印刷コストを安くおさえるために、なるべく手作りで、手分けして原稿作りをしている。そのため手描きの分量が多く、修正も容易ではないので、なかなか作業が進まず、スケジュールどおりにはならない。



生物マップ作成の様子

女鳥羽川の自然を考える会
丸山 隆一郎／金井しのぶ
E-mail : pukupoko@mbe.nifty.com



『「身近な海辺探索マップ」作り』

活動の目的

静岡市には海辺があるに関わらず、海辺で遊ぶ親子を見かけることが少なくなってきたと感じます。これは親が海辺で遊ばせたいと思っても、情報が少ないからだと考えます。そこで、この活動にて、身近な海で遊べる「身近な海辺探索マップ」を作成し広く配布することで海辺を楽しむ親子を増やすことを目的とします。

活動の内容

静岡市にて、親子で遊べる海辺を調査して詳細(※)をまとめ、身近な海辺探索マップにします。その冊子を公民館、児童会館、幼稚園、小学校などに配布します。

- ※ ・どのようなことができるか。 ・駐車場の有無。 ・トイレの有無。
- ・どのような生き物がいるか。 ・何歳くらいから遊べるか、など。

活動の効果

地元の幼稚園、生涯学習交流センター(旧公民館)、児童会館、F.Mしみず(兼出演PR)、子育て支援センター、東海大学海洋学部(博物館含む)、協賛企業(ダイビングショップ等)などに配布しました。広く範囲で配布することにより、多くの方々に本活動と趣旨を理解していただけたと考えております。

※3月下旬に子育て祭り、三保の松原でのイベント等、親子が参加する行事にて配布予定。

苦勞した点・反省点

パンフレット作成に時間が掛かってしまい、配布時期が2月上旬になってしまいました。

身近な海辺探索マップ 『海へ行こう!』



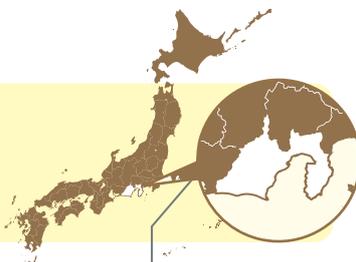
あまり海へ行く機会が無い方にも分かりやすく、イラストを使って、海へ行く前の準備など、掲載しました。



掲載する海辺はなるべく、親しめる場所を選びました。

小さな子と一緒に行く時に心配なトイレのことなども掲載しました。

海辺工房ひとで
野口 なつき
HP : <http://www.k4.dion.ne.jp/~hitode/>



『まきのはら水辺の楽校』

活動の目的

河川水質調査及び水棲生物調査と合せて、捕獲した水棲昆虫を活用して釣り体験を行い、自然界の食物連鎖を学び、水質が悪化すると我が身に帰ってくる事を、体験を通して知り、水を汚さない「気づきの子ども水辺リーダー」の育成を図る。



活動の内容

静岡県牧之原市内を流れる河川の上流流域から河口までの、生物調査及び水質調査を行うと共に、単なる調査に終わらずに、活動内では自然界の食物連鎖を知る機会として、環形生物類を調査する共に、捕獲し環形生物類を釣り餌として、河川に生息する魚類を捕獲して、その場で食して、水を汚すと最終的には、我が身に帰ってくる事を、身をもって知る機会を設ける。

また、榛原ふるさとの森で水田の役割として、作づけ～管理～収穫までの一連の流れの中で、イネ科植物が水質に与える影響と生態系に寄与することを、体験を通じて学んだ。



種苗センターで魚類などの増殖について学ぶ



こどもエコ活動で川を探索

活動の効果

ふるさと(牧之原市)の自然環境について、より詳しく知ることができた。また、「水」を題材にすることにより、水生生物調査及び稲作体験を継続して実施することにより、動植物が水辺の自然環境を保全することに対して、どのように寄与しているかを知り、自ら自環境を保護・保全する取組みのきっかけづくりが図れた。

自然体験施設「榛原ふるさとの森」が有効な自然体験施設あることをアピールすることができて、住民・行政・企業が協働して、今後、施設の維持管理・活用のはじめの一歩の取組みが図れた。



川を覗く子どもたち

苦勞した点・反省点

住民・行政・企業との調整に苦慮した。また、継続してこの活動を維持するための、サポーター制度を設立して、安定して、市民・行政・企業が協調して、施設の維持・啓発活動を実践できる場として構築してゆく必要がある。



活動のまとめとして壁新聞を作成



ヒラタドROMシ

カワゲラ

水生生物調査で観察した生き物

NPO法人 静岡県フィッシングインストラクター協会
鈴木 康之

E-mail : s-jofi@hw.tnc.ne.jp

HP : <http://www4.tokai.or.jp/jofi/newpage17.html>



『ヨシ刈り、ヨシ学習会及び瀬田川清掃』

活動の目的

昭和40年頃までは琵琶湖・瀬田川にはヨシ群落が多くあり、琵琶湖の水浄化作用や魚の産卵場所となっていました。総合開発等で少なくなり、他にも原因はありますが琵琶湖の水は汚れてきました。現在瀬田川には一か所だけヨシ群落が残っています。このヨシ群落を守り、次世代に引き継ぐために、子供達と大人との参加型活動を始めました。琵琶湖周辺にはヨシ群落は各所にあり、又ヨシ刈りも多く実施されていますが、我々は小さな活動団体ですが、子供達にヨシ刈り体験を通じてヨシの植生や、琵琶湖の環境問題を学習し、次世代に引き継ぐ、活動の輪を広げたいと思います。

活動の内容

平成21年1月25日(日)に、秋に枯れたヨシ刈りの実施。ヨシは水浄化作用、魚の産卵場所として、ヨシの生育上又周辺的环境美化も含め必要である。ボーイスカウト、ガールスカウト、学生、社会人ボート部の人々と協力して、周辺等の浮遊ゴミの回収も行いました。回収量は燃えるゴミ41、ペットボトル5、カン1、瓶1各袋及びヨシ刈り取り束でした。作業終了後昼食には女性隊員が豚汁を準備して慰労しました。ヨシ刈り後は子供達にヨシについて講師を招き学習会の実施、ヨシ笛奏者によるヨシ笛コンサートを行いました。また年3回ヨシ帯周辺瀬田川の清掃活動も実施中。



よし群落の清掃活動

活動の効果

今回の参加者はリバプレ隊員を始め、ボーイスカウト、ガールスカウト、及び瀬田川で練習等を行っている高校生、大学生、社会人等のボート部の人達総勢140名の参加でした。年々参加人数も多くなり、活動の輪が広がって来ました。又子供達にはヨシ及び琵琶湖・瀬田川の環境、生態系の学習が理解出来、後ヨシ笛コンサートによりヨシの魅力を感じた様に思われました。瀬田川のヨシ群落周辺には瀬田の唐橋、石山寺等の名所旧跡があり、環境保全美化にもなりました。



水の中に入っての清掃

苦勞した点・反省点

苦勞した点 子供達は小学生低学年からの参加があり、水辺での刈り取りで鎌等の刃物を使うため、子供達の安全に配慮しました。

反省点 地域企業、周辺自治会への参加及び、国交省等行政関係との協力等今後の課題です。

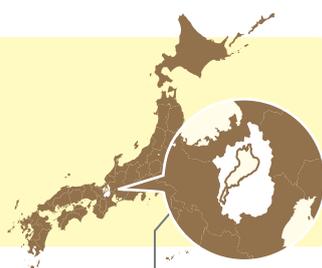


ヨシ笛奏者の方



講師からの説明

NPO法人 瀬田川リバプレ隊
富岡 親憲／美濃部 進
E-mail : minobe3181@ksj.biglobe.ne.jp
HP : <http://www.animateur.co.jp/riverplay/>



『キラリ吾妻川』

活動の目的

地域に流れる身近な吾妻川について関心を持ち、自ら課題を解決するために自分なりの方法で証拠を集め、自分の意見を持ち、川や環境を大切にする心を持ち、自分なりにできることを考え、実践する態度を育てる。

活動の内容

- ・学区を流れる吾妻川について、上流、中流から琵琶湖へと流れる下流の様子や水質、生き物の違いなどを調べることを通して水の冷たさや臭いなどを体感する。
- ・春・夏・秋と季節を変えて現地調査をし、季節による環境の変化に気づく。
- ・調べたことを自分なりの方法でまとめ、考えを交流し合う発表の場を持つ。



吾妻川の水溫調査



観察したことの記録

活動の効果

- ・ 地域を流れる川を上流から下流まで川に沿って観察することで、環境や水質の変化を体で感じることができ、川への関心が深まった。
- ・ 夏・秋と季節を変えて観察することで、季節による川の様子や生き物の変化に気づくことができた。
- ・ 川の周りに住む人からの聞き取りでは、昔の川の様子や暮らしとの関わりを知ることができた。
- ・ 保護者ボランティアの協力を得て、保護者にも活動や地域の川を理解してもらう機会になった。



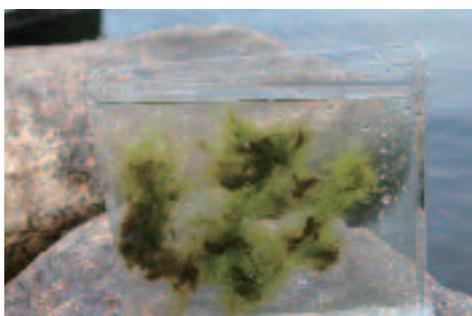
吾妻川を探検中

苦勞した点・反省点

- ・ 野外での活動であり、天候や川の状況で予定通りに行えないことがある。
- ・ 引率教員の数少なく、安全面で保護者の協力を得なければ実施できない。
- ・ 他の学校行事との重なりがあり、日程調整に苦勞した。

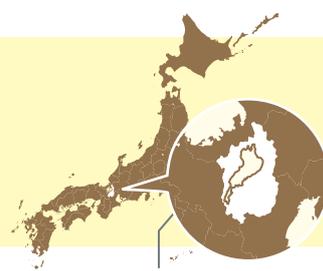


川の近くの住人に話を伺う



びわ湖河口で見つけた藻の観察

大津市立逢坂小学校
 笹尾 崇子／鋤田 英夫
 E-mail : osaka@otsu.ed.jp
 HP : <http://www.otsu.ed.jp/osaka/>



『調査・観察記録を冊子にし、地域に情報発信』

活動の目的

素晴らしい琵琶湖を次世代を担う子ども達に引き継ぐため、流域の小学校・地域の人達と協働して、子ども達が自然環境保全の大切さを学び、行動のキッカケとなる自然観察会や体験学習会を開催する。更に、これら体験学習会、観察会等を通じて子ども又流域また地域の大人の人達にも川への関心の高めることをネライとする。

また、これら調査・活動で得られた情報を冊子にまとめて地域、学校、図書館等に配布し、葉山川の実態を知って貰うと共に、活動への手がかりとして利用してもらう。

.....

活動の内容

1. 葉山川での毎月の水質測定、流域の自然観察(鳥、蝶類、魚、植物、景観等)、及び葉山川での毎月の美化活動等を実施。
2. 流域の小学校の環境学習の支援(魚捕り、葉山川探検(植物観察等)、エコスクール支援委員として環境学習企画にも参画)。
3. 地域、大人の人達を対象に自然観察会(植物観察、野鳥観察等)を実施。
4. 地域協働合校と協働して、めだか池(ビオトープ)の整備。
5. 我々も運営委員として参画している琵琶湖・淀川流域圏の活動団体又他の活動団体との協働、交流を図る。
6. 大学、県、市等との交流又多くの活動イベント・展示会に積極的に参加。



魚捕り自然観察会

活動の効果

1. 葉山川の水質データは4年間のトレンドデータの蓄積ができ、最近の行政側の経費削減からのデータ削減と相まって、データ傾向を期待されるようになって来た。
2. 流域の小学校との継続的な環境学習実施から、学校側の信頼を得、またエコスクール委員として学習企画にも参加していることから毎年の学習会開催を期待されている。
3. 琵琶湖・淀川流域圏の活動団体組織の役員としても参加し、整備局・県の振興局等の行政側との協働も行うようになり、行政との活動もし易くなってきた。
4. 公民館を主体とした地域協働合校との協働(子ども達の夏休み活動支援)等から、いろいろの支援も得やすくなってきている。



浄化実験に興味心身



苦勞した点・反省点

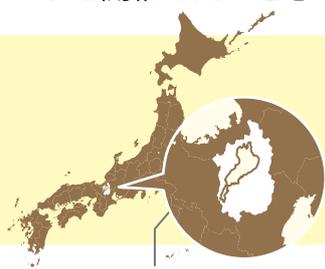
1. 毎月、川の美化活動を行っているが、土手は遊歩道として整備されていることもあり、土手のゴミは減っている。ただ、車道等の橋のもとには依然として投棄ゴミが絶えない。また、昔からの農家の人には慣習的(?)に、川はゴミ捨て場的な感がある。また、雨上がりには、上流からの漂流ゴミが多い。
2. 現状は、我々草津塾が中心の美化活動になっているが、流域の自治会、流域コミュニティと一体となった活動への移行が重要と考えている。
3. H21年度には地域、行政、大学等との協働による川の美化イベントを開催したいと思っている。

草津塾

田中 俊雄

E-mail : toshi-tnk@kuc.biglobe.ne.jp

HP : <http://npo-oumi/JUKU/>



『みんなで手作り！魚道プロジェクト』

活動の目的

1. 多様な生物が共生する川づくりの推進
2. 多世代間交流の契機づくり

規模の小さな堰堤で実験的に魚道を設置し、将来的に上流から下流を魚が往来できる川づくりを目指す過程の中で、地域住民や近隣の小学校、土木事務所等と連携を図り、自然の大切さを共に語ったり、川との付き合い方を伝承したいと考えています。



活動の内容

魚の遡上を妨げている堰堤に、近隣にて入手可能な材料を使い魚道を設置します。メンバーで案を作成した後、実施区域の区長宅に説明に行き了解を得て製作にかかり、7月29日に現場で魚道の設置作業及び魚道の効果を確認するための生物調査を行いました。

宇陀土木事務所と協議・調整を行った結果、魚道の設置期間は一日のみとなり、試験的な取組みとなりました。



活動の効果

わずか数時間の設置のため、魚道による魚の遡上は確認できなかった（人間の子供は遡上した）。計画段階で心配していた水をためる機能は十分役割を果たしていたことが判り、実施に踏み切った甲斐はあったと思う。近隣の人々も川辺に集まり、川にまつわる話に花を咲かせていた。また、大人と一緒に参加した子供が、川遊びをしたり泳いで遊んだり、川に親しむ体験ができたことは大きな収穫であった。

今後は改良も加え、より宇陀川に相応しい魚道に近づけていきたい。



様子を見に来たご近所の方

苦勞した点・反省点

安全性の問題で、魚道の設置期間が短かったこと。もう少し納得のいく協議を重ねた上で宇陀土木事務所からの理解と協力を経て、より実践で役に立つものをつくっていきたいと思う。

たった1日の小さな1歩ですが、やがてあれは大きな1歩だったと言える取り組みになりそうです。期待しています。(D.Y.)

地域住民や近隣小学校、行政が連携し、川とのつきあい方を伝承する取組みに今後期待できる。(T.H.)



こどもの遡上

宇陀かわびとの会
清水 和一／田川 陽子
E-mail : trees-45@eos.ocn.ne.jp



『歴史的景観と生態系の調和をめざす飛鳥川』

活動の目的

自然に対して最小限の人工的負荷によって河川の自然修復をめざす。

活動の内容

河床に木杭を打ち、水の流れを蛇行させることにより、水路化した飛鳥川に瀬や淵をとりもどし、生物のハビタットをつくる。

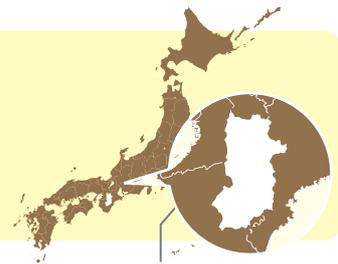
活動の効果

自生した植物による水質改善、瀬や淵の再生により魚類や鳥類が戻って来つつある。

苦勞した点・反省点

増水による木杭の打ちなおし、メンテナンス。

橿原市立畝傍中学校・科学部
松本 清二
E-mail : seimatsu@m5.kcn.ne.jp



『喜瀬川における小中学生のための環境講座』

活動の目的

東播磨の中央部を流域とする典型的な都市河川であって、近年、洪水災害の防止と自然環境の保全を目指した多自然川づくりが進められている喜瀬川を対象とし、水質調査や生物調査、河川清掃等の実体験学習を通して、地域の小・中学生の環境に対する関心を高めるとともに、地域住民を中心とした安全で良好な自然環境を有する河川の保全と創出を図ることを目的とする。

活動の内容

屋外での体験学習講座として、地域の小・中学生を対象として喜瀬川流域の歴史と文化について学習するとともに、現地や実験室での水質調査・生物調査を通して河川環境の現状とその保全・再生の重要性について考える。また、地域住民と連携して広範囲の河川清掃を行い、親水性や環境美化への意識の向上と“安全で快適な地域の川づくり”を目指した。具体的な活動は、以下の通りである。

- ・小中学生を対象とした公開体験講座
中学生のための環境講座「水生生物と水環境」(平成20年5月31日)
親子で楽しむ環境講座(平成20年7月5日)
中学生のための環境講座「身近な川の水環境」(平成20年8月19日)
- ・河川清掃
(第1回:平成20年6月11日、第2回:平成20年10月18日、
第3回:平成20年12月16日)



活動の効果

水質や生物調査を通して、川の知識、川の接し方や遊び方などの学習を行い、安全で良好な自然環境を有する河川を創出することの重要性を理解してもらうことで、地域の小・中学生の環境に対する関心を高めることができた。河川清掃については、河川管理者や地域住民の協力のもとに行い、地域における河川環境保全活動の普及に役立った。



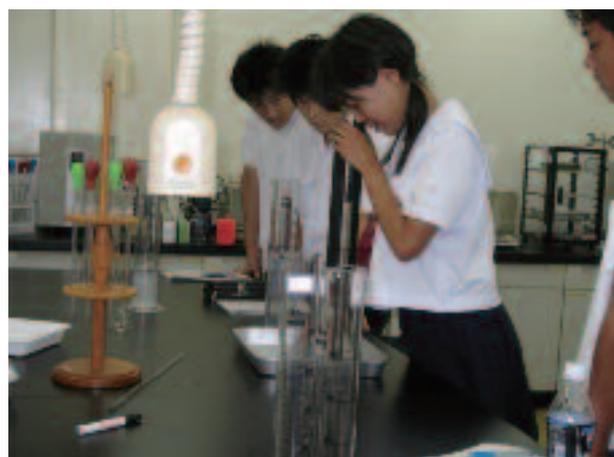
中学生のための環境講座：水質実験の説明

苦勞した点・反省点

生物調査では川の水位が高く、参加者が深みにはまるなど安全面に問題があったが、小中学生の環境に対する関心は高く、熱心に参加していた。中学生の環境講座では、昨年同様応募者が多く、2回に分けて開催したが、参加者を抽選せざるを得なかった。

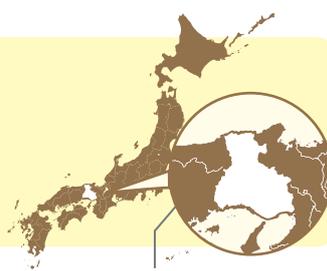


河川清掃活動



透明度計測

明石高専河川環境研究室
神田 佳一
E-mail : kanda@akashi.ac.jp
HP : <http://www.akashi.ac.jp/>



『庄下川との素敵な付き合い方の探求』

活動の目的

工業都市尼崎市を貫くように庄下川は流れている。都会の中にある、すぐ身近な自然といえる。

私たち人間が自然の一部であるならば、共に生きる仲間として、川があり、魚がおり、虫がおり、草花がいる。すぐ近くで一緒に生活しているのだから、仲良くやっていきたいと思うのは当然である。

仲間たちと素敵な関係を作っていくためには、相手のいろいろなことを知ることが大切である。そして何よりも、まずは思う存分付き合ってみる、遊んでみることだと思う。

そして、そういうことを通して、川とのより良い付き合い方を探ろうとしている。



自転車で源流調査

活動の内容

1. (川遊び・Eボート) 国道2号線玉江橋のふもとで、10人乗りEボートを漕いだ。
2. (源流調査) 上流を自転車でたどり、六樋や石碑、水路など源流の様子を確認した。
3. (生き物調査) 雨のため中止。
4. (植物観察) 岸辺の植物を調査。去年は60種、本年は40種を確認し、標本にした。
5. (下流調査) 歴史分野、自然環境の説明を聞きながら、川沿いの遊歩道を散策した。
6. (庄下川環境フォーラム) 講演、パネルディスカッションを実施した。
7. (聞き取り調査) 庄下川の昔の思い出を流域の住民から聞き取った。
8. (清掃活動) 上記諸活動において、清掃活動を臨機に実施した。



Eボートの操作方法を教わる

活動の効果

私達の活動は、流域住民・子どもたちが庄下川とより良い関係を作っていけるよう、ボランティアとしてサポートするものである。そのため、地域の広報紙に本活動への参加呼びかけや活動報告を掲載したり、地域の文化祭の展示部門に出品参加をした。

そのような働きかけの結果、地域の川、庄下川に対する関心の度合いを少なからず上げていただいた。また、そのことが川との付き合い方を見直す契機になっているように思う。

苦勞した点・反省点

取り組み始めて2年目であるが、住民のうち大人の参加数が伸び悩んでいる。広報の方法を工夫していく必要がある。したがって、活動の企画段階からの住民参加という次のステップに踏み込めないでいる。

同じ内容で何年か継続して取り組むにふさわしい活動とそうでないものがある。目的として目指すところのものを押さえつつ、活動に変化をもたせるのが案外に難しい。



庄下川ウォーキング



植物標本作成のための資料集め

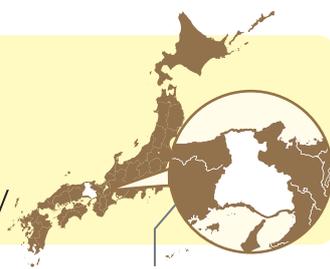


庄下川環境フォーラム

尼崎市立城内高等学校
土井 恵司／光葉 啓一

E-mail : H05-KYOTO@nd.ama-net.ed.jp

HP : <http://www.ama-net.ed.jp/school/H05/>



『ミヤマアカネのリサーチin逆瀬川』

活動の目的

校区に武庫川支流である逆瀬川が流れており、逆瀬川の自然環境の保全に子供たちだけでなく地域住民も熱心に取り組んでいる。そこで、地域の人と共に周辺に生息しているミヤマアカネ(トンボ・兵庫県レッドデータブックCランク)の生息調査を通して、逆瀬川の自然を守り大切にすることを目的とした。

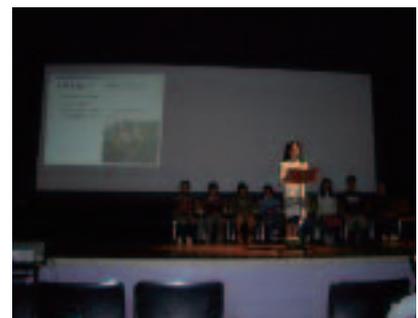


活動の内容

- 逆瀬川の水質調査や生き物調査(事前に安全指導として着衣泳を学ぶ)
- ミヤマアカネの調査・研究
 - ・ミヤマアカネのマーキング
 - ・ミヤマアカネの再捕獲調査
 - ・ミヤマアカネの標本作り、研究結果の資料作成
 - ・環境フォーラム等で調査研究結果の発表



ミヤマアカネのマーキング調査



活動の効果

調査研究活動の様子が新聞等で取り上げられることにより、子供たちの学習意欲が高まった。調査を通して逆瀬川の自然環境を理解し、逆瀬川を大切にしようとする愛着心を育むことができた。

環境フォーラムでの研究発表は、「地域のよさ」を情報発信していることになり地域住民の誇りとなっている。調査活動に地域の方も参画して下さることで住民同士の交流も深まり、本調査活動はまちづくり協議会や自治会からも高い評価と支持・支援をいただいている。



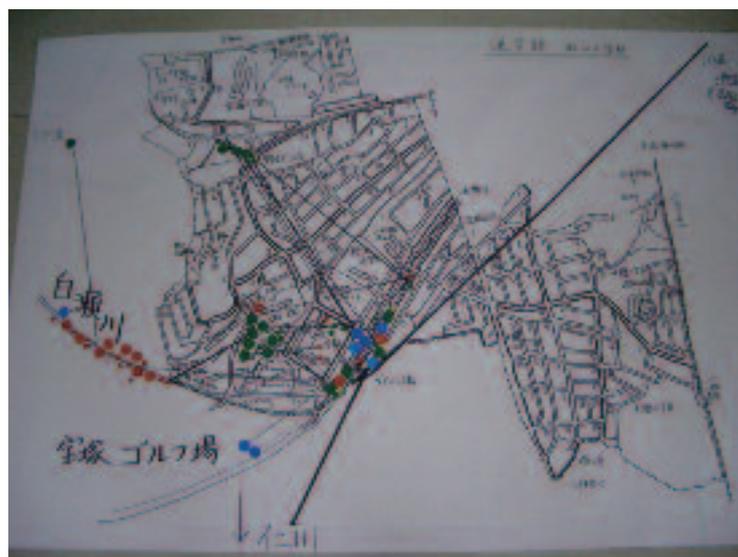
ミヤマアカネの
標本作製



苦勞した点・反省点

9月からは、朝休み時間に毎日調査活動に逆瀬川に出かけたため、子供たちの安全確保に対して配慮を要した。

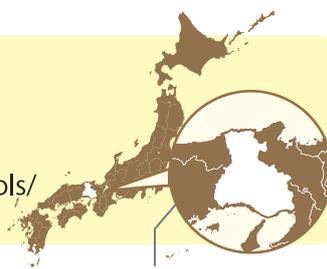
調査結果を効果的にまとめる方法を見いだすのに苦勞した。



ミヤマアカネの追跡調査結果

宝塚市立西山小学校
松本 正／中島 秀子

E-mail : el-nisiyama@takarazuka.ed.jp
HP : http://www.takarazuka.ed.jp/school/schools/elem_s/nisiyama/el-nisiyama.html



『川の汚れを探ってみよう』

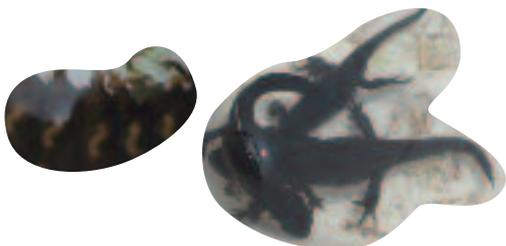
活動の目的

パックテスト(COD)や指標生物の個体数調査を昨年度に続き実施する。学校近くの川の汚れ具合を調査し、パックテストと水生生物から水質を判断する。また、川の周りの様子を観察しながら、川の汚れ方にどのような特徴があるのか考察し、きれいな川に戻すために自分たちができることを考える。活動を通じて地域の環境を大切にす
る心を育てる。

川の汚れ方を観察し、地域の環境を大切にする心を育てることはすばらしい。(K.A.)

活動の内容

校区の川の上流1ヶ所、中流2ヶ所、下流1ヶ所を調査地点に定め、様子を観察した。パックテスト(COD)や指標生物の個体数を調べ、水質を判定した。水質調査は地域の専門家2名に指導していただいた。その結果を川マップにまとめ、調査地点ごと(上・中・下)の汚れ方を考察し、川の環境を守るために自分たちができることを考えた。川の汚れ調べで感じたことを作文し、学級通信で保護者に地域の環境に対する気づきを訴えた。



活動の効果

指標生物調査を地域の専門家に指導していただき、捕獲法や分類法をわかりやすく教えてもらった。グループ調査では、保護者に安全ボランティアとして参加してもらった。川の環境調査を通じて、学校と地域のつながりを深めることができた。保護者には学級通信を通じて、校区の河川環境について発信することができた。環境保全活動を通じて地域の環境を守ろうとする意欲を育てることができた。



講師になって頂いた地域の方

苦勞した点・反省点

助成をいただいて3年目の活動である。地域の方をまねき、保護者とともに地域の環境調査に取り組む総合的な学習の時間「川の汚れを探ってみよう」の活動は定着したといえよう。昨年度は、ホームページに広く発信することができたが、今年度は作成ができなかった。今後も児童とともに地域の環境に目を向ける活動を地道に取り組んでいきたい。



魚を捕まえる名人芸に驚く児童たち

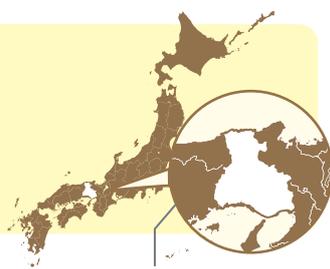


捕まえた生き物たち



石の裏にびっしりついたヨシノボリの卵

丹波市立西小学校
校長 田中 なほみ／教諭 細見 隆昭
E-mail : nishi-es@city.tamba.hyogo.jp
HP : <http://edu.city.tamba.hyogo.jp/nishi-es/>



『「川の体温を測ろう」千種川一斉水温調査』

活動の目的

1. 千種川流域約100地点の最高水温を測定し、流域全体の環境を調べる
(測定地点は、支流の合流部を重点に設定する)
2. 流域全体で一斉に取り組むことで、流域住民の連携意識を高める。
3. 実際に川の中に入って水温測定・採水することで、川を直接体験する機会を持つ
4. 温度分布から、高水温になる問題点を明らかにし、河川環境問題の解決策を見つける

水質ではなく水温に着目した点がユニークであり、水温と河川環境との関係を正確に分析し、河川環境の変化をわかりやすくとらえることが期待される。(O.T.)

活動の内容

得られたデータを、県立人と自然の博物館三橋研究員の協力を得て、水温と電気伝導度データをGISマップに作成し、視覚的に理解できるような工夫を行う予定であった。今回は諸事情により結果的に、横山が手作業で作成した。同時に考察を行い印刷物にする事で、流域全体の温度分布、電気伝導度分布から、今後これを用いた啓発活動に用い、流域全体の環境を理解するきっかけを作りたい。



活動の効果

1. 7年間継続してきたデータから、30℃を超えるような川の高水温を引き起こす原因の多くが、河川横断物による湛水や、河床の堆積、植栽林の放置による水源の荒廃などが関係していると推測されるようになった。
2. 小学生から高校生までの児童・生徒の参加により、地域環境への興味関心を持つ者が出てきた。
3. 流域全体での実施により、広い視野で環境を見る良い事例となっている。
4. 実際に川に出向いて直接見ることで、河川環境悪化の原因が人為的であることに気づくようになってきた。



苦勞した点・反省点

数値データを図表に変換するソフトを持っていないことと、それを使う技術を持たないため、県立人と自然の博物館に作成依頼をしていたが、多忙のため作成が間に合わず、図表をすべて手作りで作成した。また考察についても休日の空き時間を利用するため、実施後4ヶ月も経っての報告となりました。参加者の皆さんには少なくとも一ヶ月後くらいには結果報告できるような体勢づくりが求められる。

また7年間蓄積してきたデータを、より科学的な分析、考察を行う必要があるが、日常の仕事に追われて、それに取り組める時間がとれない事が残念である。博物館や大学との連携の上で、データの有効利用が望まれる。

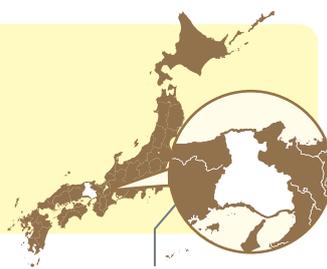


『第7回千種川一斉水温調査結果報告』

千種川圏域清流づくり委員会
岡田 国秀／横山 正

E-mail : zabel.yokoyama@nifty.com

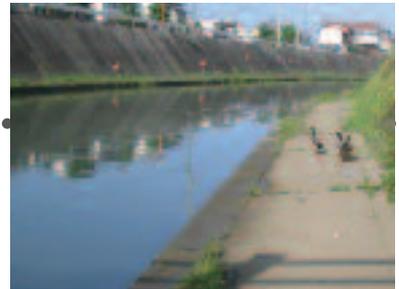
HP : http://web.pref.hyogo.jp/wh04/wh04_1_00000014.html



『熊野川に親しみ、河川浄化を目指す活動』

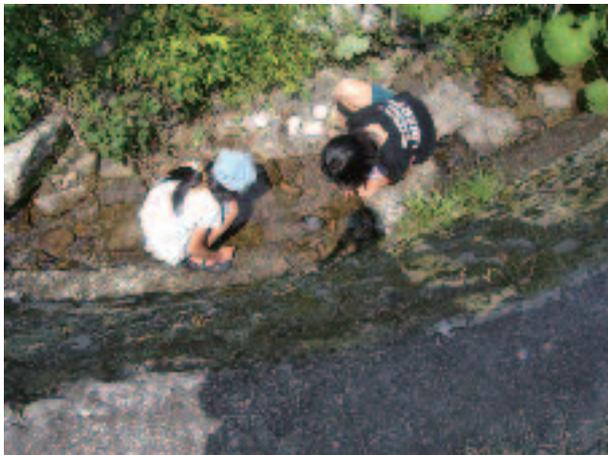
活動の目的

ふるさと新宮の身近な自然として熊野川についての理解と愛着を持ち、その環境を自分との関わりの中でとらえ、水質やそこに住む生き物を調べることができるようにするとともに、環境の保全や創造に努力する態度を育てる。また自分たちが学んだことを発表会を通して広く地域に発信していく。



活動の内容

- ・ 川に住む生き物にふれる活動からスタートし、発見した生き物を調べる中で指標となる水生昆虫について学び、さらに川の環境を考えた。(相野谷川、市田川源流)
- ・ 学校付近の市田川で水質の1日変化を調べた。
- ・ 専門家の指導の下、野鳥についての学習会、観察会を行う中で、川に親しみ、地域の川に愛着を持ち、環境を守っていく姿勢を育むことができた。



市田川源流調査



相野谷川調査

活動の効果

- ・市田川はかなり汚染が進んでいる河川であるが、源流まで上ると、水質検査の結果も良好であったが、さらに水生昆虫を通して川のきれいさを自分たちで確かめることをおこなった。その上で、高田川の学習を生かした形で学習のまとめもおこなえた。
- ・熊野川の学習を通しての発表会を行う中で、地域に熊野川のすばらしさを考え、そこで生活する生き物を含めての水環境の保全を訴えることができた。



夏の水質検査

苦勞した点・反省点

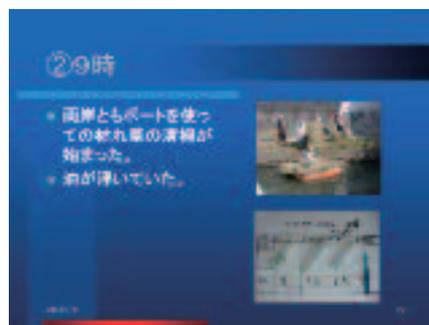
- ・川はその日の天候だけでなく、その前にどれだけの雨量があったかによって、当日観察がおこなえるかが決まる。そのため、4年生の活動日はおこなえない日が続き、活動を断念した。
- ・熊野川の発表会を今年度は蓬萊小学校で2/5に本宮小学校、熊野川小学校の2校を招き、交流することができた。



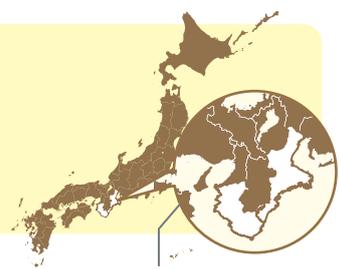
熊野川野鳥観察



学習発表会の画面



新宮市立 蓬萊小学校
田原 光英／雑賀 聖哉
E-mail :saika@lily.ocn.ne.jp
HP : <http://www.za.ztv.ne.jp/hourai-s/>



『芦田川の自然に触れる魚しらべ』

活動の目的

- 芦田川の汚れは、流域からの生活系の排水などが主な原因であり、水環境改善においては、流域住民が芦田川の現状を理解し、汚れた排水を減らしていく等の取り組みが必要である。しかしながら、流域住民の芦田川に対する関心は依然として低く、芦田川は“汚い川”といったイメージが強く実践度も低い。
- このため啓発効果の高い流域の子供たちを対象に水辺学習会を開催し、水辺の生き物とのふれあいや水質調査などの体験学習を通じて芦田川への感心や興味を高めるとともに川の自然の大切さを伝えていく。
 - また、子供たちで芦田川生き物マップを作成することで、更なる啓発活動への活用を図っていく。

活動の内容

- 水辺学習会は平成20年10月13日に、芦田川上流の府中大渡橋、支川出口川の2地点において、流域の小学生(保護者含む)とスタッフなど総勢91名により実施した。
- 調査は、生物や水質の専門家等を講師に、水辺の生き物調査(魚とりと同定)、水質調査(透視度計測、パックテスト:COD、リン、チッソ)を実施した。
- “マップづくり”(とりまとめ)は平成21年1月18日に“芦田川見る視る館”(国土交通省)を会場として実施した。各グループのリーダー等の有志が集まり、調査結果を“芦田川さかなマップ”としてとりまとめた。今回は、平成17年から4回分の調査結果が比較できるマップとし、さらに見つかった魚の説明文も全面的に見直しを行った。



活動の効果

- ・ 新聞、ラジオ等のマスコミを通じたPRの効果によって、昨年よりも参加者数が20名程度増加しており、イベントとして定着しつつある。
- ・ 活動後に参加者からは、「たくさん魚がとれてよかった」「前よりも魚がもっと好きになった」「魚の説明が聞けて勉強になった」「芦田川に魚を取りに来ることがないのでよい経験になった」など様々な意見があり、参加者への一定の啓発効果が得られたと考えられる。



4時間かけて作った芦田川さかなマップ

苦勞した点・反省点

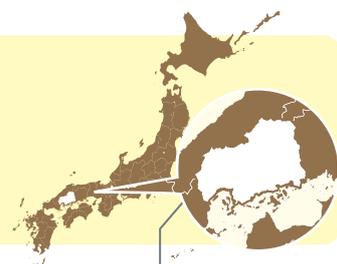
- ・ 参加希望者が年々増加しているため、昨年同様に道具の調達に苦勞した。
- ・ マップ作成では、平成17年度からの調査結果があるため、4カ年の比較ができるようにとりまとめた。
- ・ 他団体等の様々なイベントが同時期に催されていた上、当団体にて同時期に別のイベントを企画しており、日程調整がうまく行かなかったため、日程が過密になってしまった。



活動レポート



芦田川環境マネジメントセンター
田中 宏行
E-mail : aemc@fm777.co.jp
HP : <http://fm777.co.jp/pc/aemc/index.htm>



『川の楽しみ』

活動の目的

ゲームしか楽しみのない子ども達に自然の川の楽しさを体験。地元の豊かな自然の川で、沢山の生き物とふれあい、釣り、シュノーケリング、カヌー等を通して川が大好きな子ども達の育成。また、安全管理として、親子流水水泳体験、親と指導者に対するリバーレスキュー講習を実施して、川で安全に楽しく遊べる環境を作っていきます。

活動の内容

地元の豊かな自然の川で、沢山の生き物とふれあい、釣り、シュノーケリング、カヌー等を通して川が大好きな子ども達の育成。また、安全管理として、親子流水水泳体験、親と指導者に対するリバーレスキュー講習を実施して、川で安全に楽しく遊べる環境を作っていきます。



- ① 指導者のためのカヌー教室
- ② 元国体選手に教わります
- ③ 流水でのロープキャッチ&着岸練習
- ④ 美しい景色に素晴らしいカヌー環境



活動の効果

豊かに自然溢れる川で沢山の生き物に触れることで子ども達はたちまち夢中になって遊んでくれました。それまで水に顔さえ浸けることが出来なかった子が2時間後にはシュノーケリングで夢中になって魚を観察する姿が見られました。イベント終了後、地域の川で魚捕りをする子ども達が沢山見られる様になりました。



神戸川窪田地区での川祭を地域と共催したところ大変好評でした。

活動を通じて、川で夢中になって遊ぶ子ども達を久しぶりに見て嬉しかったと、地域の皆さんから沢山の意見を頂きました。

指導者(小学校教員)のためのカヌー教室は参加者こそ少なかったのですが、学校関係者に水の楽しさをかなり強い印象を残せたようです。来年は生徒も連れてのイベントとしたいと、希望を頂きました。

苦勞した点・反省点

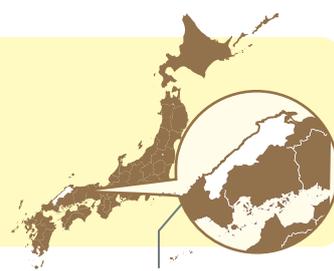
濁水のためラフティングが開催できず、斐伊川川遊びに変更しました。

親子のためのリバーレスキュー講習会は江の川鮎釣り関係者との折り合いが付かず中止としました。江の川鮎釣り関係者の理不尽な縄張り意識の強さに閉口しています。代換案として高津川川遊び特訓キャンプを開催しました。水質日本一の高津川で素晴らしい体験が出来ました。



救助研究会
松井 純

E-mail : MATSUICANOE@nifty.com



『忌部川と宍道湖のふしぎに学ぶ』

活動の目的

今まで気にもしなかった身近な環境“川”はどんな環境なのか、地域を流れる忌部川での生き物調査や水質調査を体験して、その環境の見方を知る。特に2008年度は外来種に目を向けて、身近な環境に外来種が生息することに気付き、その問題について考える。また、忌部川が流れ着く汽水湖“宍道湖”の環境について、実際に船で沖に出て、水深・水温・塩分の測定を行い、宍道湖を知ることが主目的に活動した。



アクアスコープ

活動の内容

1. 年間3回の河川調査を行い、身近な川に生息する生き物の多さを実感した。特に今まで生息記録が途切れていたアユを投網で採取できたこととダム上流にカワヒガイが生息することを確認した。
2. 身近なところにも外来種が生息することに気付き、その問題について考えた。
3. 汽水湖“宍道湖”の環境について、学習院女子大学環境教育センター長、品川明教授による実験を中心とした環境学習と船舶を利用し水深、水温、塩分の測定を行った。
4. 忌部川で調べて分かったことを地域の人たちと情報を共有するため、模造紙4枚にまとめて文化祭に展示したと、報告書にまとめ小学校等に配布した。



石を持ち上げて、指標生物調査



セルピン調査

活動の効果

1. 忌部川の上流から下流にどんな生き物が棲んでいるのか、特別採捕許可を受けて実施した投網や籠網の採集から、参加者は身近な川にたくさんの生物が生息することに気が付き、川に関心を持つことができた。特にアユの記録はシンボルにもなり、今後の環境の見かたを考えるきっかけに繋がると思われる。
2. 外来種問題について身近なところで起きている事実を知り、興味を膨らませた。
3. 宍道湖では水深や塩分の測定の方法を理解した。そして宍道湖の環境について自分達で計測したことにより理解できた。
4. 指標生物の観察ではルーペや実体顕微鏡を用いて、種の識別に重要な特徴をじっくり観察することにより分類能力を高めることが出来た。



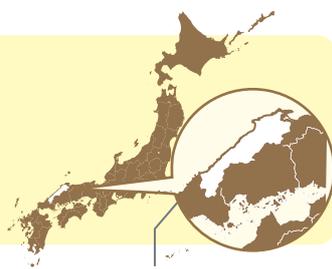
苦勞した点・反省点

外来種は数回しか採取できなかったため、たくさん生息する事実を伝えきれなかった。

宍道湖の活動を増やして、会員全員が宍道湖とふれる機会を作りたい。



こどもエコクラブ 忌部わくわくサファリ
戸田 顕史
E-mail : yuna_upa@yahoo.co.jp



『こどもエコクラブ・ちくご川キッズ探検隊』

活動の目的

九州一の大川、筑後川沿いにある筑後川発見館くるめウスを活用することにより、未来を担う子どもたちが、この地域環境の良さだけでなく問題点にも気づくことにより、その解決へ向けて子どもたちができることをやりたいと考えるきっかけづくりを行う。また同時に家庭や地域の大人たちもサポーターとして活動に加わることで、地域の環境改善へ向けて活動の輪を広げていくきっかけとする。

活動の内容

筑後川発見館くるめウスを拠点として、隣接の筑後川及び高良川において子どもたちのための体験活動を行った。6月より水質調査、自然観察会、川遊び、川探検、川と水に関する体験講座等を専門家の協力を得て実施した。この活動はこどもエコクラブの活動として子どもたちを一般より公募して行った。

平成20年6月8日	身近な水を調べよう、全国一斉水環境調査
平成20年7月27日、8月9日、16日、23日	こ〜ら川こども探検隊
平成20年9月6日	筑後川流域のおもしろ地学と化石のレプリカづくり
平成20年11月30日	高良山キノコ観察とキノコ汁を食べる会
平成20年12月7日	みんなさそろって出てこんね、紙しばいが始まるよ
平成21年1月17日	身近な水はどこに行く、浄化センター探検



こ〜ら川下流水質調査



こ〜ら川こども探検隊まとめ

活動の効果

この活動には、一般より延約200人の親子が参加した。またこの中には、複数回参加する子どもたちもあり、さまざまな体験活動ができることが人気を呼んだ。この活動を通して、子どもたちは、筑後川の水を大切にする必要や、川の生きものの多様さを学んだ。こどもたちや父兄からはこの活動をぜひ続けてほしいとの声が出された。またこの活動を地域の人々が目にすることで子どもたちが活動できる川を守っていく必要を感じることができた。



化石のレプリカ作り

苦勞した点・反省点

館を離れた場所で行う活動の場合、広報で人を集めることがむづかしかった。この場合、事前の広報期間を充分に取る必要がある、と反省した。また、川での活動の際にはこどもたちの安全のために充分な配慮をすることに注意を払って行った。



浄化センター探検



こーら川こども探検隊7-8月ポスターチラシ

筑後川まるごと博物館運営委員会
駄田井 正／鍋田 康成

E-mail : kic@kurume.ktarn.or.jp

HP : <http://www.ccrn.jp/maru/index.php>



『樋井川ごみゼロプロジェクト』

活動の目的

1. 樋井川に捨てられたごみの実態を、広く地域住民に知ってもらう。
2. 「ごみのない美しい樋井川づくり」に向けて何ができるかを、活動参加者とともに考え、実践につなげてもらう。
3. 次代を担う小・中学生に、樋井川での活動に参加することを通して河川愛護、環境美化への意識を高めてもらう。

.....

活動の内容

1. 樋井川あおぞら美術展：地域の子供たちから募集した樋井川の美化に関する絵やポスター124点を、樋井川沿いの遊歩道に展示した。(9月27日～10月11日)
2. 草刈り：樋井川一斉環境調査に先立ち、参加者の安全確保と作業効率を高めるため、10月4日(日)調査地点となる河川敷の草刈りを行った。
3. 樋井川一斉環境調査：福岡大学水圏システム研究室との共催で、11月9日(日)に樋井川の上流～下流の15地点で一斉に水質調査、生きもの観察、ごみの実態調査を行った。地域住民や小学生～高校生106名が参加。12月21日(日)に調査結果の報告会を開催した。



樋井川の美化に関する作品展示



124点の応募がありました

活動の効果

よく理解した優秀な作品が多かった。樋井川沿いでの展示後も市内の喫茶店で公開されるなど、作品を通して環境美化・河川愛護の重要性を発信できたと思う。

樋井川一斉環境調査には106名が参加。後日開催した報告会では、樋井川の実態を具体的な数値で参加者へ知らせることにより、環境美化への意識をさらに高めてもらうことができたと思う。参加者から様々な感想や意見が出され、地域住民の樋井川への思いの強さをあらためて実感した。



夏場には河川敷の草刈りをします

苦勞した点・反省点

樋井川あおぞら美術展は今年度で2回目、樋井川一斉環境調査は3回目だが、開催後も樋井川のごみはあまり減っていない。今後は活動参加者以外の人々への啓蒙も視野に入れて取り組んでいく必要を感じている。



パックテストで水質調査



樋井川の美化に関する作品展示

樋井川を楽しむ会
上菌 剛司

HP : <http://hiikawa.yu-yake.com/index.html>



『巖木川の水環境と暮らしに学ぶ環境学習』

活動の目的

巖木川の堰と用水路には、江戸時代に築造されたもので、水車群をはじめとする用水路(頭首工)付近には改修記念碑など多くの歴史と文化を残している。そこでこの周辺を子供たちが安心して遊び学習できる環境の整備をすることで、子供たちが水辺の体験学習を通し、社会とのかかわりを学び、環境保全の大切さを地域社会へ発信し共に住みよい循環型社会の実現を目指す。



活動の内容

- ・ 学習フィールドの環境・安全整備: 毎年5月、7月、12月に数日に分けて、概ね3回の除草作業と増水などによって、毎年川の様子が変わる事から、河川の安全対策には特に気を配った。
- ・ 小中学校と協議をした後、まず水辺から課題を探すための川筋を歩いて水際の様子と地域の歴史や暮らしの特性を学ぶために校区の探検(観察と体験)を実施した。夏休みには、川の安全教室・水難救助法の体験・投網による魚の観察なども体験した。2学期に入ると、2つの班(川の生き物と川の汚れのチーム)に分かれ課題を決め、水質調査をするなど学習を深め、その結果をグラフにしてまとめ、3学期に父兄や学習支援に関わった人達を招いて発表会を開催した。



河川沿いを歩きながら説明を聞きます



川のゴミ清掃・大作戦

活動の効果

用水路に回る水車を復元して以来11年目を迎え、その後の取組として、用水路とほぼ平行して流れる巖木川の環境整備（草刈を中心とした安全整備）図りながら、子ども達が安心して学習できる環境をめざし、昔からこの地区の暮らしを支えてきた「自然と文化（水車）」の保全と小中学校の「総合的な学習」の学習支援者として関わってきた。特に夏休みのリバーズクール（川の探検・救難救助法など）は、高齢者の協力（指導・安全監視）もあって徐々に定着しつつある。また、3月には河川の近くに「農村公園：公衆トイレのある多目的広場」が完成するので21年度は「水辺と田んぼの楽校」の開校の年としたい。

苦勞した点・反省点

時により増水する川は、時々形を変える事から、年間を通して学習するフィールドには、絶えず草むらに流木などが付着するので、安全第一の観点から草刈と安全点検・整備管理には、目がはなせない。



用水路にある水車について学習



学習成果の発表会



救難救助法の体験



学習を支援してくださった方々

自然と暮らしを考える研究会
 石盛 信行

E-mail : suisha@po1.people-i.ne.jp
 HP : <http://web.people-i.ne.jp/~suisha/>



『川の危険性を知って学び楽しもう』

活動の目的

1. 川は私たち人間にとって「学び」「遊び」「憩い」「やすらぎ」など多くの要素を持った場である。これらの場で学び、遊び、楽しむ中で、川で活動することの楽しさを体験によって知ることを目的とする。
2. 川は危険が潜んでいる場でもあり、川での事故を起こさないように、自らが川の危険性を知り、対処するための知識・能力（危険の排除又は回避する能力）を身につける。知識として知るだけでなく、実際の川を使った安全教育により安全管理が行える能力を身につけることを目的とする。

活動の内容

子どもたちを対象として、川の危険箇所や川遊びをする時の注意やルールを学び、実際の体験を通して川の危険から身を守る方法を学んだ。安全講習に合わせて、カヌー体験、水生生物・水質調査、川遊び体験を行った。

1. 川の安全講習

川で活動するときのルール、川の危険な場所、身を守るための道具・装備（PFD）、身を守る方法（身を守る流れ方や泳ぎ方）を学んだ。

2. 水生生物・水質調査

自分自身の体で感じてもらい、白川について興味、関心、理解を深めてもらおうと水生生物・水質調査を行った。水質は「からだ」「くすり」「生きもの（水生生物）」の3つ方法を使って調べた。

3. カヌー体験

水鳥の視点になって周囲の自然観察を行い、川を楽しみ、魅力を体感。



正しい装備を正しく装着



川にある危険を知って楽しく遊ぼう！！

活動の効果

1. 地域住民からは川は危険な場所として捉えられ、川に近づかないのが安全対策と考えられていた。特に、保護者が川の活動から遠ざかっていた。講習後には、保護者を中心に、川に近づかないことが安全対策ではなく、何が危険なのかを認識したうえで、危険に対処する能力を身につけることが重要である事の認識が深まった。
2. 白川の水質や生きものを知ることによって、水のきれいさを知り、生きものと人間のつながりを感じ、白川や地域に対して親近感を持つと共に愛する心が芽生えたように感じる。
3. 参加者から、「楽しかった」「また参加したい」などの声が聞けた。保護者からは、今後、このような活動があれば是非参加させたい等の言葉が聴けた。継続した活動が必要。



流れ、危険な場所、そしてルールを知る



身を守る流れ方を学ぼう

苦勞した点・反省点

1. 川は危険な場所として捉えられ、川に近づかない事が安全対策と考えられていた。そのため、参加者を集めるのに苦勞した。
2. 増水により、水生生物の採取が出来なかった。そのため、写真を用いた説明、水生生物と水質の関わりについての説明に変更した。

まさに川の危険性の認識は少ないと思う。危険性を知って、学び、楽しむ。これこそ川の学習であると思う。(K.A.)



カヌーで白川を探検

NPO法人白川流域リバーネットワーク
清家 紀昭／谷 光承



『中学生に地元の川を学んでもらう』

活動の目的

地域の中学生に、地元の川を通して、川の歴史・文化・自然を知り親しみをもってもらい、自然保護や仲間を大切にする気持ちを育んでもらう。

河川観察やカヌーを使った体験学習、川の安全講習を行い、川での安全に対する知識を学び、河川での事故を防ぐ。

河川の危険性を知り、事前に事故を防ぐことは何より最優先に考えなくてはならない。レスキューの技術を学び、地元の川の文化を学ぶことはすばらしい活動である。(K.A.)

活動の内容

- ・ 川の安全講義(講義・実技)を行い、川の構造・川の危険・泳法・心構えを学んだ。
- ・ 河川観察サイクリングを行い、最終日に下る川の形や、そこに咲く植物、歴史・文化を学んだ。
- ・ カヤックの実技講習を行い、直進・ラダー・Tレスキューなど技術面を学んだ。
- ・ 地元の川で行われていた漁法や釣り針の結び方、投網の打ち方を学び地元の川文化にふれた。
- ・ 最終日にこれまで学んできたことの集大成として、8.5kmの水上ゴミ広いかヤックツーリングを行った。
- ・ プロジェクトWETで水の特性を学んだ。(全10回)



安全講座で川の構造や特性を学ぶ



体育館でスローバックの練習を行う

活動の効果

初めは、カヌーに乗ってみたいという気持ちから参加したという声が多かったが、感想文などを見てみると、川の見方がだいぶ変わってきたようだった。以前は見過ぎていたゴミが目につくようになったなどの声も多かった。今年は雨天も多く、バックアッププログラムとして、プロジェクトWETや漁法などの川文化を学ぶ機会が多かったため、参加者からどのような反応があるかと思っていたが、それぞれのプログラムにとっても熱心に興味を持って参加しており、水の特性に興味をわいた参加者もいたようだ。

苦勞した点・反省点

例年より総合的学習の時間も減り、かつ雨天が多く、カヌーを練習する時間がとても少なかったため、苦勞した。1回ずつの内容も濃くなり、少々詰め込みすぎる回もあったので、余裕を持ったプログラムづくりに心がける。



初めて行う川での練習に苦戦



緊張も次第にほぐれ、笑顔でのカヌー練習



プロジェクトWETで水の特性を学ぶ



地元川を学ぶサイクリング

NPO法人みずのとらBELL隊
宮地元／田中 清也



『環境調査を通しての地域、水族館との連携』

活動の目的

学校の脇を流れる身近な樋脇川の水質・生物調査、清掃活動を兼ねたゴミ調査を行い飼育することで、観察の方法や視点、器具や薬品の使い方のスキルを身につけさせると共に環境を大切に自然に親しみ、愛おしむ心を養う。

壁新聞や「鹿児島環境大臣」作文コンクール等に応募や福岡マリンワールド等の専門家との学習、地域活動に参加することなどで多方面から評価を受けることで活動に向けての意識を高めるとともに持続できるようにし、自然環境の大切さを他の生徒や地域全体へも広げられるようにする。



活動の内容

1. 樋脇川の状態→幅、深さ、流れの速さ、川底の状態
2. 水質 → 透明度、におい、温度、PH、ORP、電導率、COD、NO2、リン酸
3. 生物 → 種類、数、場所
4. 飼育 → 捕獲した生物を水槽や池で飼育、観察
5. ゴミ → 数や量、種類、地域の清掃活動への参加
6. 清掃活動 → 4で調査し記録をとったものを集め分別処理
7. 地域との活動→ 地域で行われる川を中心とする行事、活動への参加、援助
8. 報告、応募 →
 - ・県の委託の水生生物による水質調査
 - ・かごしまこども環境大臣「環境レター」(鹿児島環境大臣任命)
 - ・壁新聞
 - ・文化祭での発表や調査結果の掲示
 - ・フォトコンテスト応募
9. 水族館との学習
 - 遠隔授業や出張授業、講演



活動の効果

- ・ 調査の方法や器具、薬品の使い方、飼育などのスキルが高まった。
- ・ 地域行事の参加により連携ができ、昔の川の様子、生物の捕獲の方法なども教わることができた。
- ・ 環境大臣に任命され県の環境関係への行事に参加し活躍することができた。
- ・ 川を中心とする清掃活動を兼ねた清掃活動による環境への意識が高まった。
- ・ 文化祭や壁新聞作成と掲示による報告することで他の生徒の意識も高まった。
- ・ 市・県の環境関係・河川局やエコクラブなどの環境団体へ活動・調査報告ができた。
- ・ 遠隔授業により学習に対する生徒の意識が高まると共に専門的な知識を高められた。また出張授業と講演に来ていただくことで全校生徒にも広げることができた。



苦勞した点・反省点

- ・ 35名の生徒に対して指導者が少なく、安全や指導面が十分対応ができなかった。
- ・ 選択理科の一時間の授業と昼休み等も組み合わせて活動したが、準備や後始末、行き帰りの時間の関係で観察・調査の時間が限られたり、十分なまとめや考察ができないことが多かった。
- ・ もっと広い範囲や近隣の他の川での調査・観察も行い、その結果を比較する活動も行いたかった。
- ・ 「環境こども大臣」に任命されたが、他のコンクールや応募に参加したが作品の完成度が低く良い評価は得られなかった。
- ・ 遠隔・出張授業は生徒の学習に有効なので、より多くの機会をもつとともにいろいろな種類の講師の方と交流ができるように図りたい。

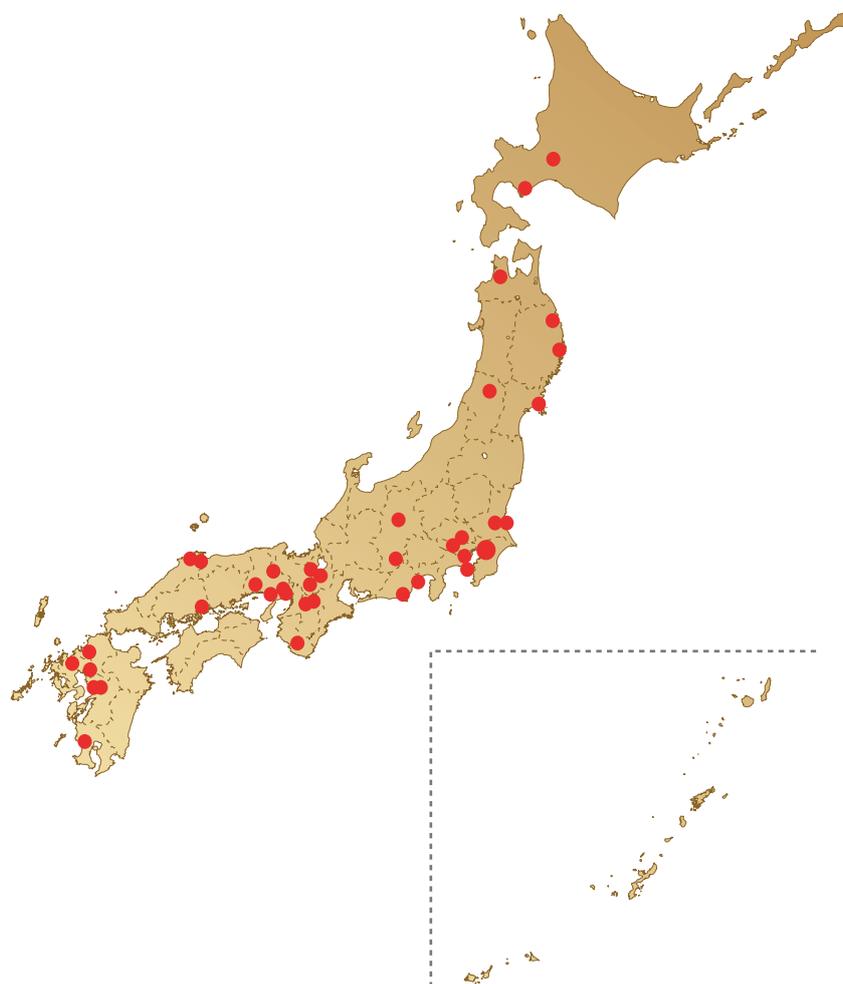


薩摩川内市 入来中学校
東園 和臣／益田 芳秀

E-mail : kyoutou@iriki-j.edu.satsumasendai.jp
HP : <http://www.edu.satsumasendai.jp/iriki-j/>



平成 20 年度 助成対象団体 活動場所分布



計 40 団体